

こなすのも辛い毎日でした。以前からやっていた斜仕事を、母
女が忠告してくれられたので、私の転機となりました。日々の家事を
そんな折、「お母さん、何か好きな事を、始めたい方がよいです」
私を支えてくれたのが、家族、友人、近所でした。
人の説明（かままだあり、胸の苦しさも、繞りてあります。そつし
それでも自分で自分を映して観ているような感じ）同じ症状の友
しみ会として染込んでいます。（
長期休業というところになりました。現在は、数人で月一回のお楽
ちようど、結婚や介護などでお君子の人数も減っていたので
の緊張に耐えられなかつたからです。

こう思った症状の続く中で、お茶の稽古は辞めました。長い時間
ように思います。
倒れて数急車で入院。ここにきてかつかつたままにか落ちて来て来た
キーシンヨクといわれ、状態だと思えます。（で買物中
平成十一年には、不眠症、不眼症、アムルモル症）アムルモル

つても、いい安定剤を注射しても、うつこも、しばしばあります。
か悪くなり、幼稚園に勤めている長女に電話して病院に連れて行
震えています。投薬もありました。気分悪く不安、そんな時は夫の握り
締めめ付ける気分悪く不安、そんな時は夫の握り
いっつも頭に柔らかな帽子をかぶっているように、時々折を、ク
ました。

あまり無理せず自分のペースで生活した方が、良いとおっしゃ
先生は、「嫌な記憶は消えなくなる、不安感も消えるので、
れません。

か追いついてゆかず、電車が移動する不安、食物の不安、数え
ひとりで居る不安、大勢の中に居る不安、電車の動揺、景色に、目
閉口しました。い気分が悪いというだけ、説明できません。
中で、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、
あるといわれています。この間、ついでに、ついでに、ついでに、
あつて、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、ついでに、

状の全てを経験したようです。・・・ついでに、ついでに、ついでに、
次々とあまきれる程ありました。更年期の乗り越しの不安もある症

おちあめ

平成十五年六月九日(五十六回)の誕生日に

皆さまの健康をお祈りしています。

長々とごめんね。

山藤が薄紫色に夕暮れの中かで、ちわちわから笑い泣いています。
にお立ち寄り下さいね。

《器と器》

おちあめちゃんのお店

山梨にいらした時は、是非おちあめちゃんの家へ行ってみたいです。
自分史の後半を、ゆっくりとゆっくりと読んでいます。
皆さまと共に過ごした時から、三十九年が経ちました。これから

入に優しい気持ちを持つようになつたこと、感謝しています。
け。米の国境を越えて、音楽に救われたこと、音楽の強さを、
下の花にほほえまされたことか。
お花にほほえまされたことか。(こころ)で来たのも音楽や手仕事、
く。越えられたかと思つています。(でも)でまたひびいて遠くへ行
私には、更年期症状を家族、友人、先生に支えられて何とか乗り
までの生活を見直す、そんな過渡期にもほつてほしい、そして今

今年も、庭のシャラの木に真っ白な花が咲いています。
全国的に梅雨の季節となりましたが、皆様如何お暮らでしょうか。
久々に通心32号を、送らせていただきます。

前回31号発行より、この6月でちょうど3年経ちました。

先ずは、長い間、通心が途絶えていました事を、お詫び申し上げます。

この3年間、2001年のテロ事件以来、世界は、本当に大きく傾きはじめました。この先日本は、地球は、どうなるのだろうか、子供達の時代はどのようになるのだろう。言い知れぬ不安に襲われています。そこに更年期と重なり無気力な日々が続き、気にならぬながらも通心を、お届けすることができずに今日に至りました。

先日石川君が、前回の同期会より7年、そろそろ関西で集まりませんかと、声をかけてきました。

この7年間、社会の状況から見ても、とうてい同期会どころでは、なかったのですが、卒業後三十数年私達も五十代後半を迎え、気持ちを切り替え、そろそろ良い時期かもしれないと、いうことになりました。

来年あたりに、同期会を企画されるかも知れません。お楽しみに。

今回の通心の執筆者は、あやめちゃんこと、羽田綾女さんです。

原稿をお願いしてすぐに、そのままなまにお届けしたいくらいの、綺麗な文字の原稿用紙と、手作りの袋物と器の写真掲載した、お店の満4周年挨拶状を送って頂きました。

あやめちゃんも大変でしたね。家族の愛を再認識なされたことでしょう。これからは、私達世代のモットーは、[のんびりと自分を大切に生きていく]ですね：

次回からは、関西の方々に、通心をバトンタッチいたします。

通心ネットワークセンターは、兵庫の青木さん宅にお願い致しました。

今回、あまり目新しくありませんが、名簿を作成しました。変更や間違いがありましたらお知らせください。

私達は、この厳しい時代、ストレスをまともに感じる世代です。

向暑のみぎり、どうぞ皆様、ご無理なさいませんに、お体大切に。

2003年6月20日

伊藤 章子

追伸

あやめちゃんのお店《藍と器》は、都留市の 高尾町通りに有ります

都留市中央 2-4-3

電話

0554-43-2661

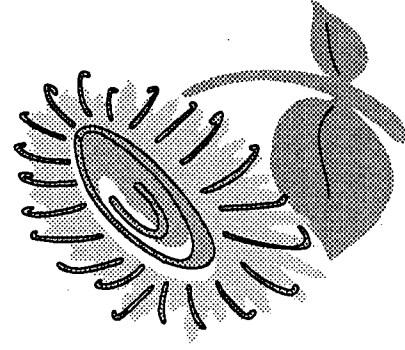
2003年発行

『通心ネット・ワーク』 会員名簿



氏名	旧姓	郵便番号	住所	電話	備考
山田常雄		299-0255	千葉県袖ヶ浦市下新田960	0438-63-0329	国
吉田学		270-0021	千葉県松戸市小金原8-9-6	0473-44-6862	東
渡辺幸子	島村	125-0061	東京都葛飾区西亀有2-34-5	03-3603-9714	国
渡辺幸子	藤田	964-0052	福島県二本松市箕輪1-585	0243-23-7156	国
渡部真吉		243-0021	神奈川県厚木市岡田1-8-12-502	0462-29-1254	東
下記の方をはじめ住所のわからない方が、大勢あります。ご存知の方は、セクタ-まで御連絡ください。					
岡本俊朗					東
小谷保子	坂元				国
三沢栄子	船橋				国
小林良弘					東
須藤信夫					東
高橋貴志子					東
竹中義人					国
土屋由紀子	清田				西
長谷川憲次					国
片平しげ子					東

同期会参加の皆さんへ



去年よりは少しましなと思うものの、梅雨明け以来暑い日が続いています。お元氣でお過ごしでしょうか？ 楽しかった同期会から早8カ月。

長いこと何の音沙汰も無しで、ごめん下さい。まずは、言い訳から聞いて下さい。

去年の同期会の後、わが家のパソコンが壊れました。マニアックな息子のお古で、もともと気難しいときいているものですから、故障しても近所の電気屋さんでは、買い替えるしかないように言われ、困っていたんです。

ワープロで会計報告だけでも思いましたが、せっかく石川君と村治さんがデジカメのファイルを送ってくれたので、参加者には各自が写っている分を渡したいし、参加できなかった人には、全員写真を取り込んだ“通心”を送りたいと思ひ、息子に修理に戻って来てほしいと頼み続けたのですが、彼にもいろいろ忙しい理由があつてちつとも帰ってくれず、やっと7月下旬に帰って来て修理してくれたようなわけです。そんな訳で、8カ月もたつてしまひ、感激の薄れた報告で申し訳ないですが、やっと皆さんのお手元に届けることになりました。本当に、ごめん下さい。

経費節約のため、写真用紙でなく、A4サイズのマット紙にプリントしたものを手でカットしたので、鮮明度が少し悪いのと、サイズが若干ふぞろいですがお許し下さい。風景写真は、石川君が撮ってくれた宝蔵院参道と庭園のみごとな紅葉、村治さんが撮ってくれた大河内山荘庭園と、そこから天龍寺への竹林の道の4枚を全員に。あとはそれぞれが写っている分を。旧暦のお盆を前にした暑い盛りに、紅葉の写真もまた乙なもの、広い心でお許し下さいね。

皆さんから預かった、“通心”運営費千円は、“通心”の会計報告の方に計上しました。

次の還暦記念の同期会まで、何回“通心”を出せるか……。

とにかく頑張ってみますので、ご協力をお願いします。

青木安代

2004年12月4日同期会会計報告

項目	収入	支出	残高
参加費 (8,000×19人)	152,000		
膳處漢(会場“ぜぜかん”と読みます)		138,984	
参加者への最終案内郵送料(11月18日)		1,220	
写真用インク・用紙代		7,010	
同期会会計報告コピー代		360	
今回のメール便送料(参加者17人分)		1,430	
合計	152,000	149,004	2,996

※ 送料は、不参加者へ送った“通心”だけの送料と、写真を含めた参加者の分の送料との差額を、同期会の会費から払い、残高は運営費に入金させていただきました。

暑い日が続いていますが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

昨年 12 月 4 日の同期会から 8 ヶ月。長らくお待たせしましたが、参加者全員の写真と紅葉のみごとな庭園の写真とともに、楽しかった同期会の報告をいたします。

まずは、19 名全員が写っている、会場での食後の満足げな集合写真から。（長く会っていない人には、名前と顔が結び付かないでしょうから、旧姓で苗字を記しておきました）



ちょっと薄暗い部屋の中、元織物問屋の古い調度品に囲まれて、中華料理店とは思えぬ雰囲気《膳處漢》で、美味しいにおいと楽しい会話が聞こえてきそうな、卒業後 33 年のここやかな皆さんです。

この場での大きな話題は、齊藤(村治)さんが、長年の研究テーマを岩波書店から上梓されたということでした。(別紙に、本の表紙と朝日新聞の書評をコピー)そして、ドンこと藤井(魚井)さんは、NPO 法人「地球映像ネットワーク」の事務局長として、各地に講演など忙しく飛び回っているようです。(別紙に、山形新聞掲載の記事をコピー)

又、参加はできませんでしたが、前回の神戸での同期会の直前に亡くなった迫田章朗君の妻、けい子さんが、迫田君の追悼文集を須藤君に言付けて下さり、何人か分けていただきましました。そのけい子さんですが、韓国の童話の翻訳を手がけ、朝日新聞に取り上げられています。息子の元君も、劇団を主宰し、作・演出兼役者として年2回位の公演をしているそうです。(これも別紙にコピー)

さて次は、翌5日の天龍寺塔頭、宝厳院のみごとな紅葉。
残念ながら、林さん、福本さん、須藤君は、先に帰ってご一緒できませんでしたが、他の皆さん、学生時代に戻ったかのように、「ウワーきれいー!」「見て見てー…」と感嘆詞と溜息の連続でした。名カメラマンのおかげで切り取られたこのアングルが、又素晴らしい! 京都旅行案内の雑誌社から来そうな美しい写真を撮ったのは、石川君でした。



昼食は、光源院すぐ横の湯豆腐 嵯峨野にて。そこで和やかに湯豆腐会席を食べている
ちようどその時、一足先に帰った須藤君から電話が入り、途中で買った朝日新聞の書評欄
に、村治さんの本が紹介されていると知らせてくれたのです。村治さん本人も知らなかつ
たことで、そこでまたもや、ワイワイがやがやと祝福の輪。
学生時代に戻った楽しい2日間でした。

こちらは、昨年10月に、山梨県都留市の羽田綾女さん宅へ私が伺ったときの写真です。同期会に参加するには、まだお体が本調子でないという返事をもたらっていたので、私がお家の法事で富士市へ行った折に、ぜひお会いしたいと思い、行ってきました。

綾女ちゃんには、温かくもてなしていただき、彼女の手作りの作品が壁いっぱい飾られたお部屋でゆっくりとさせてもらいました。完全復帰までそう遠くないでしょうから、次の同期会には、彼女のやさしい笑顔にお会いできることと思います。

さて、最後に今回の同期会で決まったことをお知らせします。

次の同期会は、還暦記念と称して、2008年から2009年に、東京のグループに幹事をしていただけで、開催することになりました。

また、今回参加の19名から“通心”運営費として各自千円ずつ入金していただきましたことを報告しておきます。これを含めて、今回の送料までの会計報告も同封しておきます。

以上、同期会の報告を“通心34号”として皆さんにお届けします。

※ 全国的に市町村合併による住所変更が多くなっています。

“通心”を確実にお届けするために、住所変更のあった方は、お知らせください。

では、次まで皆さんお元気で。

2005年8月6日 青木安代



『山あげ祭り』(三同期会)レポート

6月、石川君から、栃木県烏山の『山あげ祭り』へのお誘いメールと手紙が届きました。私はすぐ連れ合いに、7月22日から一泊で参加して下さるからあと「よろしく」と言うと、「エイ！？祭り・・ほくも行きたいな～」と言う。私は「???ただだっただっこれって三同期会なのよ。あなたが参加なんて～?」と思いつつ、返信メールにその旨書き送ると、こころやさしき史学科のみなさんからお許しのメールをいただきました。

さて当日、長引く梅雨も強力なる『晴れ女』(だれ?)のお陰か、雨もあがり、宇都宮から宝積寺で皆さん(井田さん・伊藤さん・河野君・長谷川君・広川君・毛利さん)と合流し、乗り換えて烏山に着くと、前日から参加の村治さん・いわき市から参加の川島さんと恵ちゃんがにこやかに迎えてくれました。昭和の雰囲気の色濃く感じられる(恵ちゃん曰く、『寛さん』に出てくるような)駅前旅館『久保田』に荷を置き、まずは腹ごしらえ。

那珂川のほとりに、その鮎料理で有名な料亭「ひのきや」がありました。まわりを緑濃い森に囲まれ、那珂川のみえる棧敷席ではしばらく待つと、鮎定食が出てきました。塩焼き、甘露煮、ワライと鮎飯。川魚の苦手な私でしたけど、そのどれもが美味しかったです！特に、鮎飯の美味しかったこと！

お腹が一杯になり、いざとばかりに会場となる駅前にもどると、そこには、ひと・人・ヒト。もうすでに、やまは上がっており、人の頭や顔の間からそのいてみるも、演目の『将門』はとも見られる状況ではありませんでした。

ちよと残念でしたが、今年はその須烏山市合併記念ということで、上野から直通臨時列車が仕立てられ、ちよとその列車が着いた直後の公演だから人も多かったのね・・・などと思いつき、「まっさいか、夜、また『将門』もう一度見ると・・・」と気を取り直して町めぐりにいきましました。『山あげ会館』では見られなかった演技をミニチュア劇場で見たり、鳥崎酒造では試飲をして、

ちよとこいい気持ちになり、名産の和紙会館にも行きました。その後、大舞台のバードを見にメイソ通りに。今年には合併記念で6町内全部の屋台が見られるとか、ラッキー！(本来は、6町内が持ち回りで担当)それぞれ趣向を凝らした屋台を山車のように町内の人が引いています。夕食を早めに戻すまし、今度はとばかりに早めに会場にいくと、やっぱり人・人・人。前回とは多少いいものの、ゆっくりに見るとは出来ませんでした。もう、今日最後09:30からの演目に臨めるしかない・・・。

『山あげ祭り』は、決まった会場があるわけではなく、町内15箇所で行われ、そのつど、やまをたまたみ移動し、また組立てるといっような作業を繰り返します。その作業のすばやさ、訓練のたまものといっような一糸乱れぬ団体行動も見所なのです。

次の会場近くで待機しながら、通りのベンチです。時間がゆっくりに流れていくように、こころのいいな～。

さて、今日最後の演目『吉野山』。何とか、棧敷席と呼ばれる椅子席を確保して見入る。拍手木と笛の合図で、屋台が引き離され、舞台ができていく。そして、前山、大山が立ち上がっていく。開演の緊張感が増してくる。照明が明るくなり、囃子方の太夫が並び、いよいよ、はじまり、はじまり。

屋間と違い、まわりの町の景色が闇に沈み、舞台がいっそう華やかに浮かびあがる。雅な歌舞伎踊りの舞台だ。演じるのは地元「烏山女子高」の生徒とか。保存会の人達と練習しているという事でしたが、なかなかものでした。『将門』はゆっくりに見られなかつたけど、この『吉野山』を堪能することができたのでヨシとしましょう。演技の最後に、舞台からこし離れた館と呼ばれるところへ、板を渡して静御前が渡る場面、その板を12・3人の人が橋げたように腕をのばして支えていたのが、いかにも手作りという感じで、町の衆の並々ならぬ心意気を感じました。

今は日本各地で夫々いろいろな祭りがありますが、この『山あげ祭り』のように歌舞伎踊りが行われているのは此処だけとか、しかも野外で。ほんとは珍しいお祭りをみせていただき、貴重な経験ができました。

二日は、残念なこと、村治さんと毛利さんは朝早くに立たれたので、残り9人で歴史探訪コースを石川君がシフトしてくれてきた車で回りました。

天気は上々。那珂川の流域には多くの古墳群や遺跡が残っていて、まず、下待塚古墳に行きました。とてもたおやかなかたちの古墳で、前方後方墳とかが。まわりには、円墳など、数多くの古墳が点在していました。その後、「なす風土記の丘資料館湯津上館」同じ「小川館」とまわりました。「湯津上館」では、「日本三古碑の一つ『那須国身造碑』のレプリカを前に、館員の説明や広川君の講義を聴き、「らん！史学科のツアーらしいなー」と思いました。い、だんだん昔の歴史脳が蘇ってくる？ようでした。昼食は八溝（やみぞ）そばに舌打ちして、こんどは「那珂川町馬頭広重美術館」へ。

美術館のコレクションは地元橋木の青木氏の収集したもので、広重の肉筆画が多く残っているのが特徴だそうです。コレクションもさることながら、その館のたゞずまいがなんとも言えずよかったです。外からみると一見ほそい柱を並べただけの建物に見えたものが、中に入ると、一転、外の光とリこんで、やわらかな雰囲気を感じましたし、自然と一体化されているように、実にこころ癒されるような感じかとても良かったです。

他にも、『小川館』で頂いた画家の平山郁夫氏の本「世界の文化遺産と日本を考える」(本当に素晴らしいほんです)やら、二次会で行ったカマバニでお酒やり、コーラやウーロン茶、はてはクリームソーダまで頼んで、ヌターにツツツツいわれたり、通りでおぼあちゃんの祭りの話をきいたり、思いついてんご盛のミニ同期会でした。

今回、国の重要無形民俗文化財である『山あけ祭り』と那珂川流域の文化遺産の旅、すうすうしく夫婦で参加させてもらったのですがとても楽しかったです。皆さんと話していると、記憶の発掘をしているようで、同期の人々や先輩・後輩・先生方の事が思い出され、懐かしいやら、また、消息のわからない人は今どうしているのかしらと、遠くへ思いをせたりしました。これを読む方のなかで、同期会にまだ参加したことのない方、行って見たいけれど、なんだか気後れしている方がいらしたら、次回の同期会(還暦)には是非参加されること、お勧めです。

最後に、事前の準備や車の運転手までしてくれた石川君、本当にありがとうございませう。また同行のみなさん、ありがとうございました。

河野くんが「プロダ」を作ってくれます。お祭りの様子や詳しい事は、

それをご覧ください。

峰広敏子(木村)

那須烏山の“山あけ祭り”に大変興味をそそられ、行きたい旨を言いましたところ、幹事石川様をはじめ皆様の「大歓迎」の言葉に嬉しくなりまして、すうすうしくも参加させてもらいました。ともかくこのお祭りが450年もの間伝承されていること、町の人が一丸となって祭りに参加していることを、またお囃子のもと地元女子高校生が美に熱心にかつ上手に野外歌舞伎を演じていることに感動しました。八溝山系の静かな山あいに囲まれ、那珂川の清流が流れているこの高山を大いに気に入りました。

旅館「久保田」のおじいさんがほころびげに町を説明してくれました。山あけ会館では“だし”のすばらしさを採りの方が説明してくれました。夕食後、次の野外劇を待つ間、道路端の縁台で腰掛けているときに町のおおばあさんが寄ってきて祭りのことをいろいろ話してくれました。なす風土記の丘の説明員の方が発掘したものを美に丁寧に説明してくれました。この町の人たちは実に素晴らしい顔をして、誇りを持って語ってくれました。こうした重要な文化が日本の各地で廃れたり、極めて観光的なものに愛質したりしており、残念な極みですが、是非この町の文化は今後とも未来へ継承されてほしいものです。またご多分に洩れず、若齢化が進んでいるようですが、何か環境負荷の少ない産業を育成して、若い人が住める魅力ある町づくりを進めてもらいたいものです。

今回の祭り見学を企画されました石川さん並びにお付き合いくださいました皆様に御礼を申し上げます。今後ともこの素晴らしい同期会が継続されることを期待します。

木村芳一

最後に、少し近況報告：

2006年6月21日発行
「宇宙船」代表 宮下 正子
☎・Fax:045-894-3670
E-mail : uchusen@child-dream.net
http://www.shin-chitiki.com/uchusen/



梅雨空の下、菜陽花がきれいに咲いています。
蒸し暑かったり、寒かったりとお天気が定まりませんが、
皆様お変わりありませんか？

日曜特別例会

6月11日は日頃毎月例会にお仕事などで出席できない方や、いつも講演会ではお話のみ聞かれて帰られる方々に、共に話し合いの場を持ちたいと考え、ご案内を差し上げました。当日は雨にもかかわらず、15名の参加がありました。

その中に一組のご夫妻、奥様といっしょにお父さんの参加があり、「このまま学校に行かないでいると、社会のルールも守れなくなるのでは・・・」「高校進学をどう思っているのか？このままでは世間体も悪いし・・・」

と語られるそのお父さんに話が集中したのは気の毒でした。でも奥様の願いを聞いて、宇宙船に足を運んでくださったこと自体、父親として、お子さんの不登校のことを真剣に受止め、奥様と共に何か学ぼうとして来られたその姿勢は、本当にすばらしく、ナイスガイのお父さんでした。貴重なお父さんの存在に思わず話題が集中してしまい、申し訳ありませんでした。

また別のお母さんからは、

「子どもが100人いれば100様の個性がある。

平均的に、偏差値的に大勢の中にはいるのではなく、分布して端の方にちらばっている個性の中にもキラキラした個性があるはず。各々に発達の違いがあるのだからと思う。毎日我が子を見て、その長所を、その発達の進歩を感じて喜ぶことにしている。と言っても毎日が自分との戦いである。

『子どもの知っている事は重ねて言わない。』

『子どもの苦しんでいる事は言わない。』

と心に決めていいるが、つい言ってしまう自分との闘い、反省の日々です。」と

そして

じっと見守って待っている、必ず本人が求めてくる。

と仰っていた姿が心に残ります。

宇宙船のスタッフもみんな経験したことなのです。

今回もまた皆様のお話を伺って、多くのことを学ぶことが出来ました。

語は尽きず、またの機会を作ることを、お約束しました。

または是非いらしてください。(宮下 正子)

～当日の感想から～

☆ 今日はこちらが良かったです。

色んな会に参加してきましたが、学校に戻すを目的にしたところが多く、ちょっとさびしいものを感じていました。今日はリラックスしてきくことが出来ました。今までの自分の経験と重なりながら、このままでもいいんだと自分の状態を安心することができました。

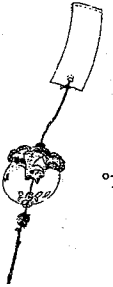
☆ 今日、いろいろなお話を伺って、私自身のゆとりが持てました。この気持ちがきくと、子供の気持ちをリラックスさせる事につながるのかな？と思います。今の一番の目標は「一日一歩、笑って過ごせる時間を少しでも持つ」ということです。一歩一歩ですね。大切な時間になりました。有難うございました。仕事をしているので、日曜日に会を開いてくださって良かったです。

☆ 今日、体験を聴かせて頂きましてありがとうございます。

現在、保護司をして15～20才の少年の面接をしています。皆さんの話を聞いて、その子供達の事が重なりました。保護観察を受ける子どもは学校に行か、仕事をするか、どちらかを選択しなければいけません。

しかし、それが出来ない子どもが多いです。昼夜逆転する子、万引きをする子と大変なことが多いですが、その子ども達も悩んでいます。ちょっとのキックでみるみる成長します。それまでの忍耐ですが、今日集まりましたお母さん達も同じ気持ちだと思います。

とにかく、いいところを見つかること(大垣さん=宇宙船心理士の言った言葉)です。私もその様に思います。今日はありがとうございました。



6月11日に開かれた、日曜例会では、新しく参加された方々の自己紹介の中から、不登校に関するいくつかの問題が提示され、それを中心に話し合いがなされました。長い経験を持つスタッフからの話や、また新しく参加された、まだお子さんが不登校になって日の浅い方からも、とても感慨深いお話が聞かれ、良い時間を持たたと思えます。

まず、不登校と医療の問題では、通院により投薬がなされている事で、薬に対する不安やお子さんへの対応について話されました。不登校の初期段階では、ほとんどの場合、身体症状が見られるので、医者にかかる場合が多いのですが、一部を除いて、まず「薬」で治療しようとする＝病気という認識が子にも親にもでき、薬を飲まなくても、ことは掛付けや、親自身を含めての環境整備に努めることで子供が元気になるにも拘わらず、病気を作り出してしまったり、薬依存へと進んでしまうことがあります。その間、親子関係はむずかしくなってしまうたりするケースもあります。ただ、不安で仕方のないお子さんが、「薬」として砂糖菓子のようなものでも安心を得、元気になる場合もあり、むずかしい問題です。今は、他の病気でも、セカンドオピニオンや、サードオピニオンを求める時代です。親で納得の行く専門医を探す必要があると思います。しかし少なくとも、親は子供を病氣として医者に預けてしまうような精神構造になってはいけないのではないのでしょうか？

次に、勉強・進路・学校の問題について意見を申し合いました。

身体症状の出る初期段階にゆੱくり家庭で休めると子供は元気になるってきます。そうなる、親はどうしても勉強や進路のことか心配になり、なんとか学校へ、勉強へと関心を持ってもらいたいと思います。学校へ行かないままでも、通信教育や家庭教師を頼むことをしている親御さんも、今回参加されたかたの中にもいらしたようです。しかし、子供は不登校になった事で挫折感を味わい、それまでのプライドはくずれ、自信喪失で傷ついています。ゲーム漬けになっていたり、昼夜逆転であったり、外へ出て一見元氣そうに見えるお子さんも内裏、その行動は不安の裏返しとして、紛らわしているだけということがあります。また逆に、親の期待を先取りして頑張ったりしている場合もあります。それを、子供自身の意思と勘違いして喜んだり・・・とにかく、傷ついている子供を、「あなたの将来のため」とい、二者択一的に追い詰めることだけはしてはいけないのではな

り、また、不登校から学校を中退し、海外留学し、個性を重んじる考え方を学び、不登校もひとつの個性として捉えることが出来るようになり成長して帰国されたお子さんの話など、核心に触れるお話も聞きました。

最後に、家族の話になり、とにかく「まず夫婦が仲良くなければ参加者のお母さんからお話がわり、子供が不登校になったことがきっかけとなり、夫婦がより意見をかわし、理解が深まったと報告がありました。素晴らしいですね。そことは、子供に「大丈夫だよ」という何よりのメッセージとなった事と思います。

【次の例会の予定】

例会は 毎月第三水曜日です

- * 6月21日(水) 場所 横浜市健康福祉総合センター9階(小2会議室) 8月はお休みです
- * 7月19日(水) 場所 横浜市健康福祉総合センター9階(和室)
- * 9月20日(水) 場所 横浜市健康福祉総合センター9階(和室)

時間 PM 1:30~4:00 各日おなじです。

会費 定例会 ¥300

乗物 JR・地下鉄・各バス 共に桜木町下車(野毛方面徒歩1分)

【なんでも話せる会】

* 7月5日(水) 13:00~16:00

8月はお休みです

場所: 泉区図書館 会議室 相鉄線いずみ野駅 北口

会費: 300円

お子さんの事で、ご質問のある方は(045-823-8865) 大通まで

【あとがき】

日曜例会の時、一人参加されたお父さんのご意見に対し異を唱え、身の程をおきまえず「きちんとお答えします」などといってしまい、あれから10日悩ましました。私は専門医でもなければ、臨床心理士・カウンセラーでもないですし、一度や二度話をしたところで簡単に解っていただけの問題でもないことをここに記し、お詫びいたします。とりあえず、先の文章で少し触れたつもりですが・・・是非、これに懲りず、また例会にご参加くださることを願っています。(木村)

我家は現在、夫と息子二人の4人家族。長男(25歳、修士2年、千葉で一人暮らし)次男(23歳、4月より新社会人)夫は、昨年リタイアし、1年休養後、また少し仕事。私は専業主婦で、パートと趣味・ボランティア少々。

そのボランティアについての話を聞いてください。

私は、「宇宙船」(不登校から学ぶ会)という組織でスタッフをしています。横浜市桜木町駅前の健康福祉センターで、8月を除く毎月第三水曜日に例会を開いています。その会報作りや、講演会の開催準備が主な仕事です。

「宇宙船」は、1990年から活動し、不登校・ひきこもりの当事者とその関係者の会です。実際には、ほとんどの参加者は母親ですが、お互い、今抱えている不安・苦悩や問題を話し、経験者の親や心理士の話を聞き、おたがいに学びあうという会です。不登校・ひきこもりの子どもにどう対応したらいいか、どういう所に相談にいけば良いのか、経験者でないと分からない問題が多くあります。

不登校に対する認識は、すでにこの問題が30年近い歳月を経ているにもかかわらず、統一的認識がなされているとは思えません。過去には、「戸塚ヨットスクール事件」や、今年4月、愛知のNPO支援施設での青年の死など、悲惨な事件も起きています。

不登校になった子ども達は、多くの場合、学校へ行こうとすると、自らの自由になるはずの体が、自分の意思に反し様々な症状を呈し、そのことに不安や、不愉快を感じ、更には悔しさや罪悪感をいただいています。本人達が、最も辛い思いをしているのです。決して、甘えているのでもなく、怠惰なのでもないのです。むしろ、まじめで、頑張りやが多く、また、本人の心理的内面だけの問題としては解決できません。

私は、今まで関係のない方々には不登校の事は話して来ませんでした。しかし、一般の人に語りかけることで、認識が広がり、そこから、いまだ家庭で孤立している人たちに、「ひとりで悩まないで！」と伝わり、その方々達の解決の糸口になる事を願ってやみません。

2006・8・7

宇宙船 HP アドレス : <http://www.shin-chiiki.com/uchusen>



お元気ですか？

梅雨明け以降続いた猛暑も、この頃やっとな朝夕涼しい風が吹くようになりましたが、皆様の方ではいかがですか。

さて、一年ぶりの通心です。6月に、石川君から栃木県烏山の「山あげ祭り」を見に来ないか？とお誘いがありました。仕事の都合で参加できませんでした。

今回は、そのとき参加した11名を代表して木村(旧姓峰広)敏子さんからの報告です。ご主人と一緒に仲良く参加されたそうで、後にご主人からも一言添えて下さっています。峰広さん・村治さん・石川君それぞれの写した写真をCDでたくさん送ってもらったのですが、紙面の都合で3枚だけ載せます。峰広さんのご主人が写っている方もあったのですが、一応史学科のメンバー全員が写っている方を優先しました。芳一様ごめんなさい。峰広さんの近況報告の後、彼女が携わっている「宇宙船」の会報を添付しました。

不登校の問題は、本人も家族も、胸中を吐露する場所がないことが、問題解決を遅らせている要因だと思います。このようなグループがあるということを知るとは当事者にとってはとても心強いことです。我が家の娘も登校拒否を繰り返し、友人・先生にどれだけお世話話になったことか。必死の叫びを聞く耳を持つ、「あなたを大切に思っているよ」と抱きしめる親の態度と、その親の不安な心の内から漏れる言葉を、手を握ってタダ黙って聞いてくれる人がいることは何ものにも変えがたいものです。不登校に限らず、悩んでいる人がやっとの思いで口に出す言葉を、ただ「うん、うん」と聞いてあげて下さい。



「山あげ祭り」に関しては、参加者の一人である河野君がブログで紹介しているそうですので、訪ねてみてください。彼のブログサイトアドレスは

<http://blogs.yahoo.co.jp/yhj711/> で

検索は、「散歩に読書」と入力してください。また、河野君のメールアドレスは

s-kawano@seapple.ne.jp です。感想など寄せてあげてください。

今回もう1枚、魚井さんが携わっているNPO法人「地球映像ネットワーク」が、東京で開催する映像祭のパンプレットを同封しています。東京近辺の方で興味のある方はぜひ観に行ってください。

ではまた次の機会まで皆さんお元気で！

昨日、今日と久しぶりの晴れ間が見えましたが、明日からの近畿地方の週間予報にはお日様マークは見当たりませんが、曇り空のうっとうしい日が多く続くようです。

皆さんは、いかがお過ごしですか。

10カ月ぶりの「通心」は、『40周年メモリアル同期会』のお知らせです。前回の京都での同期会の折りに、次は還暦記念の同期会を開こう……という話が出ていますが、今年には私たちが1967（昭和42）年に東洋大学に入学してから40年ということと、今年から来年にかけてほとんどの皆さんが還暦を迎える節目にも当たるといこととで、『40周年メモリアル同期会』をすることになりました。

入学したての20歳前の若者だった頃、自分の行く先に60歳という年齢を思い描いた人はいたでしょうか？

学園紛争の嵐吹きすさぶ70年前後に大学に籍を置いた私たちは、右や左の闘志として走り回った人も、ノンポリ学生だった人も、一途に勉学に励んでいた人も、自分の物の見方（価値観）を構築するうえで、この時代の流れの影響を受けなかった人はいないのではないでしょうか。

今や、団塊の世代と総まとめにされて、労働・年金・介護の諸問題でやや持て余し気味に語られることの多い私たち世代。

でも、生まれたときから戦後ベビーブームの子供たちと言われ続けてきた私たちは、結構一くくりにされる評価には慣れていきますし、そんなことは気にせず、自分は自分という生き方を通じた結果、その道筋には志を同じくする仲間が多い……というありがたい世代でもあります。

40年後の今日、紛争の時代を過ごしたことも、人数が多いことも、そして今仕事をリタイアする年になってきていることも、総て含めて『良き年齢』になったと思います。若者に範を示し、教えることの多い年齢。

又、まだまだ元気で活躍している大先輩たちには、学ぶことの多い年齢。

フランスのレジスタンスの碑文の言葉を、我が朋友に贈ります。

『教えることは 希望を胸に抱くこと
学ぶとは 真理を胸に刻むこと』

さて、本題に入ります。

『40周年メモリアル同期会』は、今年10月7日（日）・8日（体育の日）と決まりました。詳しい案内は、後日、東京組を代表して廣川誠さんが出てくれることになっていきますが、大体の予定を記しておきますので、ぜひ都合をつけて参加してください。

7日 13:30 白山大学前に集合…… まったく生まれ変わった大学構内・研究室

などを案内してもらいます

17:00 逗子 松汀園（神奈川県逗子市）にて会食（宿泊もここです）

8日 鎌倉散策……自然解散

各自の都合により、白山集合でも、逗子集合でも、日帰りでも、翌日の朝帰っても、最後までお付き合いです。それはおまかせです。
又、今回40周年メモリアルということで、先輩諸氏にも呼びかけようとの意見があり、連絡ができる何人かに声をかける予定です。

藤井（魚井）さんが代表を務めている『地球映像ネットワーク』からのご案内です。

8月23日（木）～26日（日） 富山市 国際会議場にて
「第8回世界自然・野生生物映像祭 in 富山」
9月22日（土）～24日（月） 東京 国立科学博物館・上野動物園にて
「世界自然・野生生物映像祭 in 東京」

時間があたら観に行ってください。

最後に悲しいお知らせです。

一年先輩の東洋史の東原信秀さんが、今年5月17日に膵臓ガンで亡くなりました。
「アバシリ」あるいは「トンバラ」の愛称で呼ばれ、背の高い体をちよっと猫背気味にして歩いていた姿を思い出します。ご冥福をお祈り致します。
彼の追悼文を、石川君に書いてもらいました。

P. S 西洋史の井上（旧姓 柴田）きみ子さんが、文京区本駒込から転居され、前回の「通心」が転居先不明で戻ってきました。どなたかご存じの方、お知らせ下さい。

「通心」ネットワーク会計報告

年月日	摘	要	収	入	支	出	残	高
		34号会計報告時の残高	47,304				47,304	
'05. 8. 8		34号「通心」再送料・航空便			310			
		プリンタ用のインク（前回記入漏れ分）			3,500		43,494	
8. 9		青井洋明氏より運営費として	1,000					
8.21		羽田綾女氏	1,000					
		片平しげ子氏	1,000				46,494	
'06. 8. 31		35号 インクジェットプリンタ用紙			567			
		コピー(5枚x55人)			2,750			
9. 3		メール便(54件)			4,320			
		航空便			190		38,667	
		合 計	3,000		11,637		38,667	

2007.7.7現在

※ 今回の「通心」の経費等は、同期会後の報告とします。

（青木安代）

網走 — 東原信秀さんの思い出

石川 恵一

網走との出合いも、40年前でした。覚えている方はいらっしゃいますか？
彼が、新入生歓迎コンパで歌を唄ったことを。僕は彼からその年の秋に、あの歌を
教えてもらいました。

——しれとこの岬に、ハマナスの咲く頃……

「知床の歌っていうんだ」とボソッと教えてくれました。それは加藤登紀子が歌って、
日本中に知れ渡ることになる2年も前のことでした。

雑司ヶ谷霊園の墓地に隣接するように、彼の下宿はありました。
雑司ヶ谷霊園を抜けるときに、「これが夏日漱石の墓だ」と教えてくれました。
東京ってすごいな。こういう所に、あの夏日漱石の墓があったりするんだ、と妙なとこ
ろで感心したものです。僕が1年の秋、東上線大山駅から歩いて10分位の所に引越
して、まもなく網走も、東上線をはさんで反対側に引越して来ました。

彼の部屋には、麻雀牌があり、当時は毎日のように麻雀に明け暮れていました。

僕のアパートからすぐの川越街道を渡ったところに『グランプリ』というスナックが
ありました。そのママさんが美人で、憲秋（官崎君）を含めた3人でよく出掛けたも
のでした。「ナポリタン、ダブルサイズ」と甲高い声で憲秋が注文すると、「うーん、
ピラフでいいか」と、ボソッと網走が。

ある日、「おいっ石川！グランプリのママよ、子供がいるんだよ。俺、それでもいい
けどな」 大山銀座通りで、子供を連れただママさんを見かけて、何やら話もしたよう
でした。

大山駅から川越街道までの商店街、大山銀座通りの中程に、『石家荘』というトンカ
ツ屋さんがありました。外見からして、チョット高級そうでおいしそうなお店でした。
「おい！ 仕送りが届いたんだ。石家荘行くぞ」「おっ！ 行く行く。二人でか？ 憲秋
は？」 「あいつ、うるさいからいいんだ」とアパートを出ると、憲秋とバツタリ。
「どこ行くの～？ 俺も行く～っ」と甲高い声で。

結局は、よく三人で、誰かが金が入ったといたっては少しだけ贅沢な気分を味わったもの
でした。悪いこともよくやりました。でも、もうあの日は戻らない。

’70年6月、彼はその大きな身体で、特別な任務を帯びた部隊に加わりました。

1年以上も小菅に収監されることになった、そんな時でも、「小菅はいいぞ。刺し身が
出るんだよ。お前ら食ったことねえだろう」

小菅を出てから、しばらく東京にいましたが、その後北海道に帰り、再び上京する時
には、八重子さんを伴っていました。「俺、これと一緒になるからよ」
複雑な事情をかかえた人でした。でも、彼は、やさしくて、意志も強く、何よりも
まじめでした。先日、網走の計報を何人かの方々にお知らせしたときに、村治さんか
らは「会える機会を大切にしたいですね」と返事をもらいました。国文科の粕本さん
からは、「東原さん、北海道へ帰ってからは幸せだったのね。それは、良かったですね」
と。あの大きな身体を、大山の四畳半の部屋に出入りする時には、背中を丸めるよ
うにしていた。外を歩くときにも、少しかがめるように歩いていた。

ボソッとした、控えめなあの語り口。今では全てが思い出。

平成19年5月17日、永遠の眠りにつきましました。

14:50

森 建一氏の案内にて、改築された校舎（昔の面影は全くない）の見学をする。（学生食堂・16階スカイホール・図書館など）
→→→→ 16階スカイホールからの眺望は素晴らしい。
→→→→ ITを駆使した図書館、学生は利用しているかな？



図書館見学の様子

16階スカイホールからの景色

15:49 地下鉄白山駅より、宿泊所である逗子へ出発

→→→→ ここで、大学までの参加者5名とはお別れする。
→→→→ 反対側のホームで別れを惜しむ青井君に対して、「もう少し下がるように」との構内放送が流れる。
→→→→ 電車を乗り間違えたり、タクシーがなくて一駅歩くなど楽しいアクシデント有り。

18:40 懇親会始まる（～20:40）

→→→→ ここから参加の後藤さん、植木さん（旧姓国分）を加えて総勢22名で。
→→→→ 「宴」酬のなかで、「欠席者からの近況報告」が石川君によって読み上げられる。
→→→→ 参加者全員による「近況報告」有り。一部は時間切れで、二次会にて行われる。



懇親会の様子(1)



懇親会の様子(2)

21:30 同旅館内にて二次会始まる（～午前23:00）

→→→→→ 遠く北海道や兵庫県から参加し、旅の疲れがあるにもかかわらず、全員参加で盛況の内に終わる。
→→→→ 渡辺先輩、青木氏、須藤氏、長谷川氏、鎌田氏と私(?)は午前3時まで。
(2)

【10月8日】

9:00 鎌倉散策に向けて旅館を出発。

9:30 最初の見学地「円覚寺」に到着。

→→→→→ここより参加の河野氏合流。

→→→→→今にも雨が降り出しそうな空模様も、円覚寺を見学中は何とか持ち堪えた。

→→→→→谷口先生は、この寺を訪れるのが初めてであることを聞いて、ゆっくり見学できなかつたのが残念でした。



円覚寺山門前にて



黄梅院

10:50 東慶寺見学

→→→→→この寺も季節の花が競うように咲いていましたが、土砂降りの雨のため、早々に山門をあとにした。

11:30 『鉢の木』にて昼食

→→→→→鎌倉は20人以上が一緒に食事をできる所がなく、幹事の伊藤さん、出沼さんが悩みに悩み抜いて決めた『食事処』でした。

→→→→→少し高めでしたが、それなりに「古都の雰囲気味わってもらえたのでは」と幹事一同自画自賛。

→→→→→石川氏の「幕引きの言葉」で、今回の同期会も幕を引きました。



鉢の木にての昼食の様子 (1)



鉢の木にての昼食の様子 (2)

【 谷口先生からのメッセージ】

今年度二回目のクラス会への招待を受ける

谷口房男

6月末か7月初めであったであろうか、毛利（現・小林）さんから、突然電話連絡がある。その主旨は、10月7・8日の連休に、卒業後40年目のミレニアム・クラス会の開催を予定しており、参加して欲しいとの申し出である。その時に直ちに思ったことは、40年前といえ、1970年代初めであり、大学闘争の真只中に学ばれた方々である。

その頃、学ばれた史学科の教員は、私にとっても恩師であるが、殆どの先生が已にお目にかかれなくなっている。とはいえ、とても私ごとがその代役など務まらないことは承知の上で、無碍にお断りすることとはと思ひ、参加を承諾した次第である。その後、手紙やメールで連絡をとりあう。10月6日に本学白山校舎に集まられた方々は私の拙いお喋りと、森建一君（本学総務部長）の案内で、大きく様変わりした学内を見学されることとなる。とくに私のお話とはいえ、今日めざましい経済発展を遂げる中国について、その理解のための一助として、「中国の国家と民族」を掻い摘んでのべたのである。引き続き一行は、電車で逗子に向かい、私も同行する仕儀と相成るこのクラス会に参加された20数名の方々には、日頃からよく存じ上げている方もあったが、多くは名前とお顔が一致しない人たちがばかりである。それにつけても、私にとっては、今年度二回目のクラス会への参加である。その

第一回目は、6月17日に1968年度卒業生のクラス会に参加したばかりなのである。ともあれ、長く本学に勤めたためなのでもあろうか、多くの懐かしい面々とお逢いすることができたことは、誠に喜ばしいかぎりである。今後さらにこのような機会が何回あるであろうか。私もあと僅かで停年を迎える歳なのだ、と改めて思うこの頃である。（2007年10月31日研究室にて記す）



【菅野先輩からのメッセージ】

40周年メモリアル同期会に参加して

菅野正夫

いざ集場所へ

同期会当日（7日）、早い時間の新幹線で東京駅に着きました。それで、夏日漱石展を観て巣鴨駅に着くと、まだ時間に余裕があったので歩いて大学に向かいましました。懐かしい風景でした。道路が変わっていたので他人に聞いて確かめながらただり着きました。8年ぐらいい前に、もう二度と大学には来れないだろうと思って、建設中の大学を見学したり白山界隈を歩き回った日がありました。白山上の懐かしの元下宿、アルハンブラ喫茶店、食堂、そして大学へ機動隊が入るとなると出動する富坂警察署等々を歩きました。歩いてみると史学科闘争委員会の仲間や政基公旅引付サークルの仲間が脳裏をよぎりました。音楽も流れていました。“風” “星に願いを”？ “悲しくてやりきれない” “ドドンパ娘” “真っ赤に燃えた太陽” 等々。パチンコ屋での音楽がまだ頭から離れませんでした。食事に困ったときはお世話になりました。喫茶店は仲間の議論の場でもありました。朝日ジャーナルをもってよくあれやこれやと議論をしました。

集場所の井上円了会館の前で早めについて皆さんと会ってだんだんと40年前のことを思い出してききました。君、植松さん、伊藤さん、峰広さん、魚井さんと会ってだんだんと40年前のことを思い出してききました。

谷口先生の講義を受講して

「中国の国家と民族」という題で講義されましたが、先生の熱い情熱が伝わってくる中で、一、民族というのは、その時代の国家（政府）によって極めて政治的に取り扱われてきた。二、中国の民族の場合は、ヨーロッパの近代国家成立の中で生まれた民族という概念では捉えられない。三、四千年という中華文明は、統一と分裂を繰り返しても分離・崩壊はしていない。しかし、他の多くの古代文明は崩壊した。

漢民族がそうであるように、南方系・大陸系・朝鮮系・北方系の混血の中で生まれた大和民族も極めて政治的につくられた民族なのかもしれない。谷口先生！解き明かして欲しいですね。

驚きました。でもなぜか薦の絡まる凶書館や研究室に愛着があります。松汀園での懇親会から

大学を卒業しておよそ40年間、みなさんそれぞれ自分の道を見つけて、困難を乗り越えて一生懸命生きてきたんだなあと思いました。そして現在も、自分の仕事に、あるいは子供や孫に、生きがいもって生きている姿がみえてきました。あまり深く話すことはできませんでしたが、みなさんがそれぞれの世界で生きている姿をみることで良かったなあと思いました。

谷口先生からアジア史やアジア哲学を希望する生徒が減少しているという話を聞きましたが、高校教員の私からいいますと、生徒は世界史というところでもヨーロッパ史に関心がいってしまいう傾向が強くなります。このあたりは高校の教員も考えなければならぬと思います。

遅子で別れてから

8日、同期会のみなさんと一緒に鎌倉へは行くことができませんでした（伝説の鉢木での食事はいかがでしたか？）、大変楽しく過ごさせていただきました。今回の同期会を計画され、実行された広川君をはじめ幹事の方々に深く感謝を申し上げます。ありとがございままです。入院している小山君の病院に渡辺君と会いに行ったら、会えることができて本当に良かったと思います。明日（9日）ではダメになるところでしりた。小山君は、長い入院にもかかわらず会った日は元気にして、同期会の様子を知らりたがったり、自分の病気のことを話してくれました。早く回復することを願って病院を後にしました。

10月7日・8日の『40周年メモリアル同期会』は、東京グループ幹事の皆さんの準備段階からの何回もの打ち合わせや現地調査などのこまやかなお心遣いによって、記念すべき楽しい集まりになりました。心より御礼申し上げます。

卒業以来36年振の大学構内は、すっかり様変わりして最先端施設を備えた高層ビルとなり、最上階の展望室からはぐるっと都内が見渡せ、後楽園のドームも手を伸ばせばすぐに手の届くような距離に見えました。昔の面影はどこにもありません。でも、大学の裏手で、昔歩いていた時と同じ金木犀の香りが漂ってきた時、「ああ、ここに変わらず残っているものがある……」とちよびり感傷に浸りました。

谷口先生の講義も、忘れていた学生時代を思い出させて下さいました。来年は還暦を迎える我が身を振り返って、学ぶことはいつからでも、どこにいてもできるのだと、改めて自分自身に言い聞かせたりしました。

また、菅野正夫さん、渡邊正親さん両先輩との邂逅も思い出に残るものとなりました。今回の『通心37号』は、廣川誠さんの編集です。ご苦労様でした。（青木安代）

『通心』ネットワーク会計報告

年月日	摘 要	収 入	支 出	残 高
'07. 7. 7	『通心』36号会計報告時の残高			38,667
7. 8	『通心』36号コピー代(3枚×61人)		1,830	
	先輩への案内文コピー代(1枚×6人)		60	
7. 9	住所録コピー代(3枚×2人)		60	36,717
	メール便57人		4,560	
	郵送1人		80	
	エアメール1人		110	31,967
7.17	35号・36号のコピー代		330	
	メール便1人		80	
	郵送1人(速達)		350	31,207
7.27	田中優子さんより運営費	3,000		34,207
10. 7	青井洋明さんより "	1,000		
8	井上きみ子さんより "	1,000		
	廣川誠さんより "	5,000		
	同期会案内の経費		9,530	31,677
	(内訳)			
	8月2日 葉書代 3,000			
	8月5日 切手代 5,450			
	8月28日 切手代 720			
	9月2日 葉書・切手代 360			
	合 計	10,000	16,990	31,677

2007年11月15日現在

※ 今回の『通心37号』の経費は、次回の会計報告にまわします。

通心ネットワークセンター 青木安代

お待たせいたしました。久しぶりの『通心』です。

東洋大学の同窓生としては、この年明け早々の箱根駅伝は「やった〜!!」、「うれしい!!」の感激の連続。初の優勝おめでとう!! 見えて力が入りました。去年は、野球部が全国制覇の快挙を成し遂げたとか、後輩たちはがんばっていますね。

さて、今回の『通心』は、去年11月15日のミニ同期会【忍城とさきたま古墳群見学会】の報告を、大変お世話になった小林隆夫先輩からのレポートでお届けします。

ご自身のお体の具合も本調子でなかったところへ、お祖母様が亡くなられたりしての取り込み中にも拘わらず、後輩たちの為に御尽力いただきましてありがとうございます。参加者は、石川君・小川君・河野君・長谷川君・伊藤さん・小林（毛利）さんと小林先輩御夫婦でした。先輩のおかげで、少人数ながら和気あいあいとした雰囲気であることができて、参加者一同感謝していました。

二つ目のレポートは、オチヨボこと林千津子さんからの、今年の同期会に関するプレゼンテーションです。彼女の住む富山県高岡市は、知名度は低いながら歴史の古い、風光明媚な都市です。特に「万葉の里」としてのアピールにも力を入れており、三日三晩連続で万葉集全20巻の朗唱をするという催しを開催して、今年で20年目になります。

そこで、私たち史学科同期会としてはこんな歴史的・文学的内容の行事に参加しない手はないということです。今年、今年の同期会を高岡市で開催すると共に、この朗唱の会に参加したいと予定しています。日時は、10月の第一金・土（予定日）・日ですが、受付が7月から始まって定員になり次第締め切りとなりますので、同期会の案内を出すより一足早く、高岡市と朗唱の会のプレゼンをしてもらってもいいですね。オチヨボは同期会の事前調査のため、去年実体験してくれました。実際の同期会の案内は、もう少し期日が迫ってから発送します。

さて年々、年賀欠礼のハガキが多くなるような気がしていますが、今回の『通心』でも悲しいお知らせがあります。

1年先輩の小山公夫さんが昨年12月9日に逝かれました。前回の同期会の時、小山さんが闘病生活をしているのを知った石川君の報告に、小山さんの同期の渡邊正親さんと菅野正夫さん、別のグループで後輩の石川君・藤井（魚井）千津子さん・平田真知子さん・須藤（川島）良子さんが帰りにお見舞いに寄ってくれました。病名は、急性骨髄性白血病。その後、'09年5月に再び石川君がお見舞いに伺った時は大変元気そうで、パソコンで京都・奈良の神社仏閣の資料作成をしていたということでした。去年のミニ同期会の案内もしたらしいのですが、その折は帯状疱疹がひどくて出かけられない・・・という返事だったとか。11月13日にまた入院してクリーンルームに入っていたのですが、12月8日に肺炎をおこし、9日は、高熱のため十何回も下着を替えるほどだったらしいのですが、割合元気で、ずっと看病に当たっていたお姉さんが「又明日来るね。」と帰った後に容態が急変して亡くなったそうです。一般病室、クリーンルーム、自宅での繰り返しで、完治しにくい病気と闘うのは本人もご家族の方も大変だったろうと思われず。

小山さんは、国史の近世史の先輩で、私も近世を選択しましたからいろいろとお世話になりました。関係からいっただら、渡邊さん・菅野さんの方が同期ですし、真知子・ユツ子の方が江古田の天華荘の同じ住人だったし、親しい付き合いをしていた人は他に同期でも、ドン（藤井さん）や木村（峰広）さんがいますが、今回は私が小山さんについて話してみたいと思います。

行田市の味覚

小林隆夫

行田市と聞いても「アーツあそこだ」と思いつく人は少ないのではないだろうか。

「熊谷市の隣の市」といったほうが最近では良くわかる。なんせ「暑いぜ熊谷」で売り出していた最中に、平成19年夏、40.9度という日本最高気温を記録してしまったのだから。

しかし隣に住んでいる私としては、熊谷以上に行田市のほうが文化的にも、歴史的にもはるかに豊かなものを持っていると感じてしまうのである。それは古代蓮から始まって最近ではB級グルメに至るまで多くの歴史的、文化的遺産(?)を残しているためである。

そんな折、東洋大学史学科OBの石川恵一氏から「行田市の史跡見学をしたいので案内してもらえませんか」との連絡があった。石川氏は史学科卒業生と連絡を取り、そのまめ役をやっているという奇特な御仁である。断るわけにはいかないのが、早速引き受けた。しかし少々不安があった。それは石川氏はその際「さきたま古墳群についての説明もお願ひします」というのである。事の勢いで「いいですよ」と言ってしまったが、日本史を勉強してきた史学科卒業生に説明できるほど私には知識はない。そこで女房と相談して博物館にいる学芸員やら研究員やらにお願いしようということになった。幸い忍城御三階櫓にある郷土博物館には東洋大学史学科出身の鈴木紀三雄氏が学芸員をしているので説明をお願いした。私は何の苦労もなく当日を迎える予定となった。ところがもうひとつ問題が発生した。それは祖母のいちの具合が悪くなったのである。歳(96歳)が歳だけにいつ逝くかわからない。「おばーさん、今逝っちゃだめだからね。12月になったら何もないから逝ってもいいよ。」「あぁーわかったよ。」なんとこの話をしていたんだらう。11月2日・3日は結婚式と高校の用事でだめ、14日・15日は30年ぶりの友人との約束と史跡巡りでだめ。幸いなことにいちばあさんは、11月8日(日)に逝った。かわいい孫のために日を選んでくれたのだ。こうして11月15日(日)を迎えた。

宇都宮からやってきた石川氏とセブレイブズで待ち合わせをして、すぐ熊谷駅に向かった。ちなみに行田市には「国鉄」の駅はなかった。住民が鉄道の開設に反対したため隣の熊谷市に駅がつくられたという話がまことしやかに伝わっている。定かではない。最近になって行田駅が吹上―熊谷間につくられた。これは行田市の南端にあり、名前は行田駅だが、行田市の住民にとつて利用するには非常に不便なところにある。バスも通っていないので、駐車場を利用しないと電車に乗れないのである。良い点は、駐車料金が安いこと。1日300円。なかには料金を払わないで駐車しているという不埒な輩もいるらしい。

何せ駐車場に車を置いて、料金を払うだけなのだから。こんなわけで駐車場はいつでも利用車でいっぱいである。急行が止まらないうえに遠くから来る人には不便である。隣の熊谷駅には時間通りに5人の卒業生が集まり、計8名で史跡めぐりが始まった。

【行田市郷土博物館】

11:00より行田市郷土博物館・忍城御三階櫓の見学。熊谷―佐原線(245号線)を熊谷駅より走って10分。城の右側の駐車場に車を止めて、博物館へと向かう。周囲を塀に囲まれた中に、竹の青と違和感なく調和した木々の紅葉した風情は、国道の雑音を遮り、別世界の趣を感じさせる。11月14日は埼玉県民の日で入館料は無料であったが、15日のため一日違いで有料。200円の入館料を払い、見学開始。

忍城は最近チョット有名になってきた。古くは山本周五郎の『筭堀』で取り上げられたが、短編でもあり、あまり知られてこなかった。しかしここ数年に『水の城』・『のぼりの城』とあいつで出版されたことにより、だいぶ知られるようになってきた。『のぼりの城』はベストセラーとなり、映画化されるといふ。事の起こりは二千人で二万人を相手に戦い、

降伏しなかったということにある。時に豊臣秀吉の天下統一に際しての関東平定が進められていた。忍城成田氏は小田原北条氏の陣営に属しており、秀吉の小田原攻めに対抗すべく小田原城にたてこもった。主力の兵が小田原に行っている間、忍城を守ったのは残された少しの兵とその家族、女・年寄りを含めて約二千。対して攻めるのは石田光成とその兵二万。そう、関が原の西軍を率いた石田光成。二千対二万では勝負にならない。まして、中心となる兵は小田原にいつている。ところがである、石田軍は何度も攻撃するのだがその都度反撃され、有効な打撃を与えることができない。やむなく石田光成は、北の利根川と南の荒川の水で忍城を水攻めしようとする。さきさま古墳群にある丸墓山古墳の山頂に陣を張り、そこから堤を築いた。現在も残されている石田堤である。丸墓山より南北に伸びる堤により、忍城は完全に水の中に取り残された。しかし忍城の兵は降伏してこない。石田軍は「忍城は水に浮くのではないか？」といぶかしく思っていたという。このことから「忍城は別名“浮城”とも称されるようになった。行田市発行の広報によると、どうも石田軍の測量が間違っていたらしい。城の高さが1メートルばかり高かったため、水攻めにあっても持ちこたえることができたようである。ともかく忍城は落ちなかった。先に小田原北条氏が秀吉に降伏したため、その後忍城は開城した。

御三階櫓からは関東平野が一望される。大きなビルもなく、非常に遠望が利く。北に赤城、西に浅間、南に富士が見える。それらはいずれもみんな遠くにあるのだ。東は何もない。光成は見た。ただっ広い平野の上に忍城と庶民の平らかな家が置いてある、と。おそろくこの地形のように智将も猛将も豪傑もない、のほほんとした城、与し易し。結果は違っていた。西軍の将=石田光成の汚点であろうか。それとも忍城二千の兵をほめるべきか。鈴木氏の細かな説明を聞きながら、つまらないことを考えていた。

【ゼリーフライ】

最近、地域独自の料理を考案したり、あるいは特定の料理を町の特産として売り出すなど料理が町おこしに利用されてきている。細かな内容は良くわからないが、郷土料理やB級グルメなど盛んに宣伝されるものもこうした状況を反映したものと思われる。カレー、焼きそば、餃子、ラーメン、うどんなどはどんなものか。具の殆ど入っていないお蕎麦焼きたたフライという料理がある。フライとはどんなものか。具の殆ど入っていないお好み焼きといったら理解されるのではないか。うどん粉と卵を水で溶いたものの中に細かく切ったネギと乾燥エビ・豚肉を少々入れて、フライパンで焼いたものである。ソースを塗って食べる。最近はしょうゆ味もあるという。行田に育ったものは誰でもフライを食べた。祭りの時、子どもたちは新聞紙の上に経木を置き、そこにフライをのせ、嬉々として食べる。行田市観光協会の出している『行田名物フライマップ』によると、「足袋産業が隆盛の頃、女工さんたちが好んで食べたといわれ、ファーストフードの走りともいえるものです」と説明している。仕事の合間の短い休み時間に食べるため、時間をかけずに簡単にできるものとしてフライが考え出されたようである。フライというと鱈フライとか秋刀魚のフライなど、魚に衣をつけて油で揚げたもの等をいうが、鉄板に油を引いて小麦粉を焼いたためフライというようになったのだと推測される。

さて、郷土博物館見学の後、昼食はゼリーフライとした。ゼリーフライはその命名の妙によりすでに早くからマスコミに注目され、テレビでたびたび放映されている。しかしゼリーとは、いわゆるゼリーではなく、銭（ぜに）の訛ったものである。形が小判型をしているためゼリーフライと命名されたものである。子どもたちは祭りと露天でゼリーフライを買ってよく食べた。祭りにはなくてはならないものであった。70歳に近いおじいさんとおばあさんが背中を丸めてゼリーフライをつくっていた。こねて、丸めて、揚げ

ていた。当時ゼリーフライを作る露天は一店のみで、そのおじいさんとおばあさんの店の前には長い行列ができていた。歳を重ねるうち、いつの間にか私も祭りに行かなくなっていたので、おじいさんの露天がいつまで営業していたのかよくわからない。気付いたときには多くの店でゼリーフライを作っていた。それも露天ではなく、普通に営業している店で。多くの人がゼリーフライのつくり方を覚えたのであろう。材料は豆腐のおからにジャガイモや人参・タマネギ等の野菜のみじん切りを混ぜて、油で揚げたものである。フライより後から出てきたゼリーフライではあったが、フライを抜いてゼリーフライは行田の郷土料理のチャンピオンとなった。私と女房以外は興味津々。しかしゼリーフライも食べると味が花。名前の異様に比べると、出てきた料理は衣のついていないおからのコロケといった感じで、違和感もなくみんなの腹におさまった。ちなみに行田にはフライとゼリーフライとを出す店が36店ある。食後私たち8人は本日の目的地のさきまたま古墳群に急いだ。

【さきまたま古墳群】

さきまたま古墳群は行田市の南東の一角にあり、前方後円墳8基と日本最大の円墳1基の計9基の大型古墳を中心として、小型の古墳も含め総数40基を超える古墳によって構成された大型古墳群である。しかも古墳は南北800メートル、東西500メートルという狭い範囲に集中して作られており、出土物から5世紀後半から7世紀初めの150年間に次々につくられたものとされている。

さきまたま古墳群が一躍全国的に有名になったのは、金錯銘辛亥鉄剣が発見されたことによる。昭和43年の発掘調査で出土した鉄剣の保存処理を行う中で、115文字の銘文があることがわかり、大騒ぎとなった。当時17号線から吹上を右折して行田に向かう道路は大渋滞となったが、行田一吹上間の道路が渋滞したことなどそれまで見たことも聞いたこともなかった。テレビでは毎日報道するし、なんとなく行田の住人というだけで晴れがましい気分浸っていた。

金錯銘辛亥鉄剣

辛亥鉄剣の銘文については様々に解釈されているが、現在までのところほぼ意見は出尽くした模様である。まず、「辛亥年」を古墳時代に当てると、60年毎に辛亥の年がくるので何回か辛亥の年はあるが、出土品の内容・稲荷山古墳の年代から471年と531年が該当すると考えられている。とりわけワカタケル大王の関連から現在では471年説を支持する人が多くなっている。

獲加多支鹵 杖刀人 百練利刀

ワカタケルと読んで雄略天皇(オホハツセノワカタケル)とするのが通説となっている。しかし、ワカは若いという意味があり、タケルは猛々しいという一般的な意味があり、若く猛々しい男という意味なので、雄略天皇とは限らないとする説もある。大和のタケダケシイ男はどこにもいる。ワカタケル＝雄略天皇とは限らないということです。しかし次の杖刀人・百練利刀という用語を調べるともう少しはつきりしてくる。

熊本江田船山古墳出土の鉄刀には76文字の銘文が記されている。従来この鉄刀にある銘文「獲□□□鹵」を「復宮弥都齒大王(タジヒノミヤミズハのオオキミ)」と読んで反正天皇に比定してきたのだが、稲荷山鉄剣が出土したことにより、その銘文をタジヒノミヤミズハのオオキミからワカタケル大王の時に、九州から関東までヤマト政権が支配下においていたことは、ワカタケル大王の時には、また江田船山古墳には「典曹人」・「八十練」の文字が記されている。辛亥鉄剣の「杖刀人」・「百練利刀」と対を成している用語が並ぶのは偶然とは考えられない。文字から考えて、「典曹人」が文官、「杖刀人」は武官を意味する用語とはす

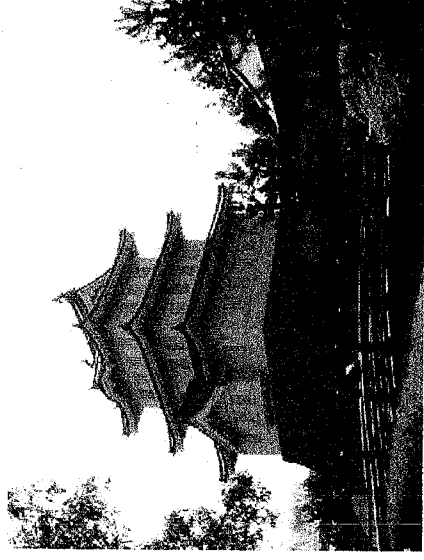
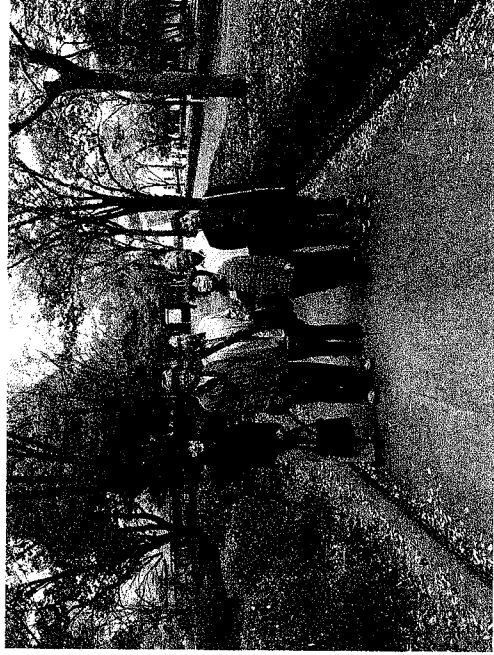
に指摘されてきたところである。江田船山古墳の鉄刀と稲荷山古墳の辛亥鉄剣の銘文とは、当時のヤマト政権の日本統一への動きを証明する内容を示すものと考えられる。

馬具・馬胄・蛇行状鉄器（旗竿金具）

さきたま古墳群からの出土物で注目されるのは馬具である。様々な馬具が出土している。乗馬の風習は朝鮮半島より伝わったもので、5世紀には九州より日本各地に伝播していった。さきたま古墳群からは鐙（あぶみ）・鞍・轡（くつわ）・辻金具・鈴杏葉など多数の馬具が出土している。その中で特筆すべきものとして馬胄と蛇行状鉄器がある。馬胄は6世紀後半に作られたと考えられている将軍山古墳より出土した馬の顔面部・頭部を覆う胄で、これについては『馬胄の来た途』という金井塚良一氏の大著があります。蛇行状鉄器は馬の後部に旗竿を立てるために取り付けた金具で、最初は発掘例も少なく、用途もわからなかったため、蛇のようにうねった形を元に蛇行状鉄器と名付けたものと予測される。馬胄と蛇行状鉄器も朝鮮半島から伝えられたもので、日本では出土例が少なく、馬胄は将軍山で出土した外に1例のみ、蛇行状鉄器は将軍山のほかに7例あるのみです。なお高句麗双楹塚古墳には、馬胄をつけ、旗竿金具に取り付けた旗をなびかせた武人の壁画があり、行田市酒巻14号墳からは旗竿金具に旗をつけた馬の埴輪が出土している。いずれにしても朝鮮半島との活発な交流を示すものといえます。

稲荷山古墳

稲荷山古墳には前方部に正対して東西に粘土槨があり、粘土槨の西側に南北に礫槨が存在する。辛亥鉄剣はこの礫槨から出土した。前からこのことを不思議に思っていた。何故なら「吾左治天下」と主張したほどのオワケノオミであるからには、無前提的に稲荷山古墳をオワケノオミの古墳と想っていたからだ。主として埋葬されていたのは前方部に正対している粘土槨に埋葬されていた人物だろう。オワケノオミは稲荷山古墳の主墳には埋葬されていないかった。最後に東洋史出身の素人の疑問を提出して終稿としたい。



埼玉県立さきたま史跡の博物館への

メインストリートにて

左から、伊藤章子さん・小林先輩・小川武保君・
小林（毛利）庸子さん・石川恵一君・長谷川勉君

今年の同期会予定地富山県高岡市より御案内

林 千津子

明けましておめでとございます。御健勝にて新しい年をお迎えのことと存じます。

さて今年も、東洋大学に学んだ私たち史学科のメンバーが4月1日をもって全員が60歳（還暦）となります。かねてより計画しておりました還暦同期会を迎えることとなりました。開催地は、“史学科の同期会としてふさわしい地ではないか”とおっしゃってくださる人がいたり、また“日本の真ん中だからいいんじゃない”とおっしゃってくださる人がいたり、富山県高岡市となりました。

皆さん富山県って御存知ですか？ “あっ、あの日本海に面した所で、場所はわかるけど行ったことないわ” という方が多いのではないかと思えます。

そして高岡は？ “うーん、どこかな？” と思っただけじゃないかと思えます。そこでここに少しばかり高岡を紹介させていただきます。

食べ物うまい!! 景色良し!! の高岡は古代においては越中の国の国府でした。今回見学を予定している勝興寺は、国府跡であると共に向一揆の拠点寺院でもありました。

古代の高岡

746年に国司として赴任した大伴家持は、赴任中に多くの歌を詠みました。その多くが『万葉集』におさめられています。

『万葉の里』としての高岡

そこで、高岡では毎年10月の第一金・土・日の3日間昼夜連続で『万葉集全20巻朗唱の会』を開催します。万葉集4500首を城址公園（古城公園）で歌い継ぎます。

‘07年に、エッセイストの嵐山光三郎さんが週刊朝日にその様子を書いていましたので読んでください。（後ろに添付しています）

光三郎氏の文にもあるように、古代服は市が貸してくれまして、濠の水上舞台でチョット古代人になったような気分です。とても楽しいものです。

中世の高岡

国府の跡ともいわれている勝興寺は、越中一向一揆の中心として猛威を振るった浄土真宗の寺院です。蓮如の四男が創建した「土山御坊」が前身です。中世から近世への寺院の景観が多く残されています。

近世の高岡

加賀二代藩主前田利長が高岡城に入り、高岡の町が拓がれました。銅器の町として（梵鐘の全国シェア90%以上）で、三大仏といわれる大仏も高岡にあります。近世遺産として国宝の瑞龍寺があります。

昨年の大晦日のNHKの“ゆく年くる年”をご覧になりましたか。

その一番最初に紹介されたのが瑞龍寺です。利長の菩提を弔うために三代の利常によって建立された曹洞宗寺院です。高岡城が一国一城令で廃城となったため、長く城としての役割を果たしたといわれます。

光三郎さんの文中にもあったように、観光資源としては金沢にも劣らぬのに、残念ながらいまひとつ知られていない町です。ぜひお越しいただきたいです。

宿泊は

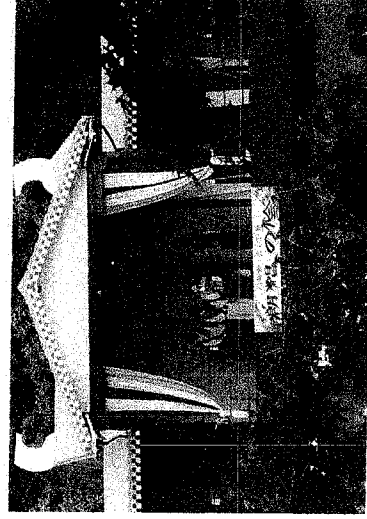
能登半島の根っこ、氷見です。高岡から車で30分。氷見の海辺から眺める風景は絶景といわれています。天気の良い日は、富山湾にぽっかりと北アルプスが浮かびます。全国各地どこにもない風景といわれています。私も、眺めては感動、又眺めては感動しています。

食事は

何ととってもキトキト（とっても新鮮なという方言）日本海の魚です。この地に来た転勤族の方々は、このおいしい魚にびっくり!! コシヒカリとともに食べる魚は最高です。ぜひの御参加お待ちしております。

平成21年10月3日(土)

皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。



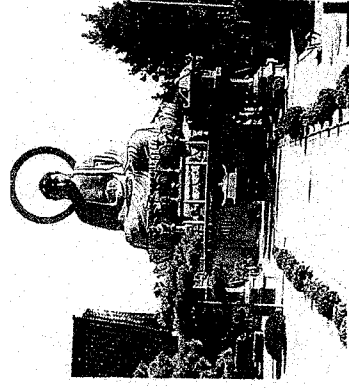
※ 昨年、林さんが『万葉集全20巻朗唱の会』に参加した時の写真です。



高岡市瑞龍寺

National Treasure Zuryuji Temple

高岡の開祖前田利長公の菩提寺曹洞宗の名刹。3代藩主前田利常公の建立で、壮大な伽藍配置様式の豪壮にして典雅な美しさに圧倒されます。山門、仏殿、法堂が県内で初めて国宝の指定を受けました。



高岡大仏

The great image of Buddha at Takaoka

歴史のうえで奈良、鎌倉につぐ日本3大仏に数えられる「高岡大仏」は、伝統の銅器製造技術の粋を集め、30年の歳月をかけて完成したものです。総高15.85m、重量65tというスケールの大きさは、高岡の象徴です。

細くて、色白で、のっぼで、めがねの奥の大きな目、飄々としていて、いつも背の低い私に「おい、どうしてる？」と頭の上から声をかけてくれて、掌や持っているノートなんかで頭をパコンってやられたのが懐かしいです。近世史の合宿も一緒にしましたし（白馬だったかな）、国史のコンパには必ずいましたよね。白山菜館や白山下から本郷通りへ抜けたところのお寿司屋さん（なんて名だったかな）、巣鴨駅北口の中華料理屋などなど……いつも賑やかだけど、うるさくはなく、自己主張しなさそうでいて結構頑固なところがあって、自分のスタイルは決して崩さなかつた。女子には優しくかつたね。史学科の一部では有名な、かの江古田の天華荘に住まい、真知子やユツ子のところへ来る友人たちと一緒にマージャンをしたり、桜台・江古田近辺に住んでいた東洋大生とも付き合いがありましたね。亡くなった迫田君なんかとも。私も西武池袋線豊島園駅近くに住んでいたもので、天華荘にはよく行きました。学校では国史の先輩の渡邊さん、牧美智子さん（現在渡邊さんの妻）、菅野さん、田中節子さん、小林敏彦さんなんかと一緒にいられています。

卒業以来、年賀状だけのお付き合いがずっと続いていますか？ その前年'04年の年賀状には、勤務先から、その年くらいに発病したのでしょうか？ その前年'04年の年賀状には、勤務先の松涛中学の中庭がきれいに紅葉している写真が印刷され、「赤羽台中 8 年、西台中 10 年、松涛中 9 年の月日がたちました」と書いてありました。多くの中学生と接して、みんなに多くの記憶を残していることでしょう。その点、教師という仕事はうらやましいですね。多くの若い彼や彼女と、大学の同窓生にもあなたの記憶は生き続けます。御冥福をお祈りいたします。

重ねて、

前回の同期会の案内の時、永倉もと代さんが '07 年 7 月 22 日に逝かれたことをお知らせしましたが、西洋史の 2 年先輩で、永倉さんの夫、瓜生喬さんも '08 年 8 月 22 日に逝かれました。ともに御冥福をお祈りいたします。

『通心』ネットワーク会計報告

月 日	摘 要	収入金額	支払金額	差引残高
2007.11.20	『通心』コピー代 115 枚		1,150	31,677
	ワープロインクリボン		2,000	
	茶封筒 A5 17 枚入り×4		756	27,771
11.21	宅急メール便 63 件		5,040	
	航空便		260	22,471
11.26	榛葉花子 運営費として	5,000		27,471
12.5	高尾拓代 運営費として	1,000		
	荒田由紀・勝又万里 "	1,000		29,471
12.21	同期会会費の残金	22,303		
2008.11.20	長谷川勉 寄附	1,500		
	榛葉花子 寄附	5,000		
	ミニ同期会会費の残金	500		58,774
	合 計	36,303	9,206	58,774

『通心 NO.37』の印刷から'08 年 1 1 月のミニ同期会までの収支報告です。

朗唱の会の進め方

朗唱する方々は、下記の表の通りです。

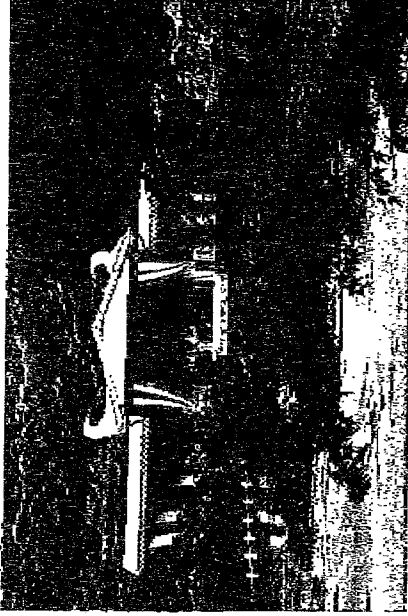
舞台、下手より青木、石川、出沼、伊藤、植木、河井、木村、後藤、斉藤、長谷川、林、平田の順に登場し、整列します。十二名が横一列で、舞台の端から端までになるかなと思います。

整列しましたら、斉藤笙子さんが前に出て、我々のグループを紹介します。それから、下記の表の順に朗唱を行います。

第 2351 番	青木 安代
第 2352 番	石川 恵一
第 2353 番	出沼 薫子
第 2354 番	伊藤 章子
第 2355 番	植木 麗子
第 2356 番	河井 孝幸
第 2357 番	木村 敏子
第 2358 番	後藤 由紀子
第 2359 番	斉藤 笙子
第 2360 番	長谷川 勉
第 2361 番	林 千津子
第 2362 番	平田 真知子
第 2363、2364 番	出沼 薫子 伊藤 章子 斉藤 笙子
第 2365、2366 番	植木 麗子 後藤 由紀子 平田 真知子
第 2367、2368 番	青木 安代 木村 敏子 林 千津子
第 2369 番	石川 恵一 河井 孝幸 長谷川 勉
第 2370 番	斉藤 笙子 以下 全員

2369 番が終わったら、全員前の方に進み出てマイクを中心にして半円形に並び、斉藤笙子さんの音頭により朗唱します。

朗唱が終わったら斉藤笙子さんの合図により一礼して、上手の方から舞台の裏手に回るように下ります。



「還暦記念同期会」のご案内

今回は、今年3月を以って1967年入学の同期生全員がめでたくも還暦を迎えたということを記念して、「還暦記念同期会」と銘打って開催します。

前回の『通心 NO.38』で林千津子さんからご案内のあった高岡市での開催です。また、「万葉集全20巻朗唱の会」への参加もスケジュールに入っていますので、みなさん一緒に参加してみませんか？ もちろん参加は自由ですが楽しそうですよ。10月の予定をこなすに早くお知らせしたわけは、朗唱の会への参加申し込みが7月初めということなので。もしも早すぎて予定が立たないという方は、その旨返信はがきにご記入の上、9月1週目位にははきりたただけたことを期待して以下ご案内します。

では多くの皆さんに参加していただけることを期待して以下ご案内します。

開催日時：2009年10月3日(土)～4日(日)

集合時間：2009年10月3日 13:00

集合場所：JR 西日本北陸本線 高岡駅南口

宿泊場所：「ひみのはな」(〒935-0411 氷見市姿400 TEL0766-79-1324)

会費：①15,000円(宿泊費9400円・拝観料・移動の交通費・翌日の昼食等を全部含めます)

② 3日だけで宿泊をしない場合・・・瑞龍寺の拝観料500円のみ

③ 4日の朝帰る場合・・・12,000円(4日の昼食と交通費を差し引

いた金額)

出欠返信締め切り：6月30日



スケジュール (参加者には後日詳しいスケジュール表を渡します)

10月3日 高岡駅南口⇒瑞龍寺
⇒金屋町散策⇒古城公園⇒
朗唱の会⇒「ひみのはな」(宴会・宿泊)

10月4日 「ひみのはな」⇒万葉歴史館⇒
勝興寺⇒JR 伏木駅⇒JR 高岡駅
(高岡駅近辺で昼食後解散)

通心ネットワークセンター 青木安代

気持ち良い季節になりました。

今日は雨上がりのせいか、裏山から木々のマイナスイオンが流れ込んできているような爽やかさです。

姫路から車で1時間も北上する我が家近辺では、低い山々の谷合に今の季節、植え込まれたばかりの早苗が陽を照り返す田の中で行儀よく並んでいる光景にお目にかかれます。長閑な田園風景。しかしながら鹿ですよ。鹿なんです。毎日苗の育ち具合を観察に来るのです。チョンチョンと苗の先をつまみ食いして。久しぶりの稲作りは、どうやら鹿との格闘になりそうです。わが亭主青木クンは、毎朝田んぼの水回りをするたびに、違った場所に鹿の足跡を見つけ、ため息をついています。山の生態系が狂っているのでしょう。鹿の被害は、ここ10年位で急増しています。

山林を持ちながら、山の手入れを怠ってきた我が家のような兼業農家の責任もありませんし、後継者がなく高齢化した世代だけがなすべもなく、そこに山があるだけという状態も多いのです。農林業では食べていけないなくなった父の代位から、別の仕事を持って、その合間に田畑の仕事をやるようになり、林業はほんの一握りの人に委ねられました。

私がここへ嫁いできてから36年。松茸が取れなくなり、イノシシが田畑の作物を掘り返し、猿や狸・狐までもが出てくるし、最近では同じ町内でクマが出たので注意するようにとの広域無線放送まである始末です。

林業は、50年～100年の長いスパンで初めて収入に結び付くので、私たちが成長してきた高度経済成長の時代では、置いてきぼりをくった産業です。

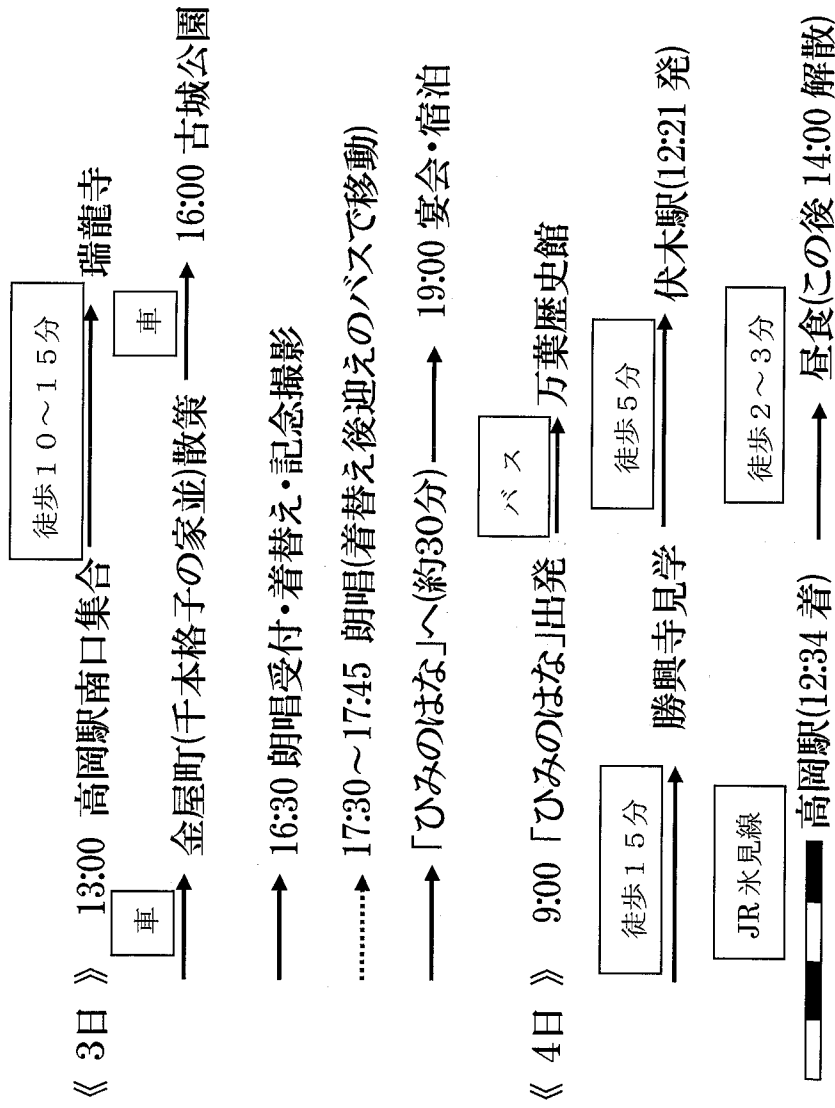
今、使い捨ての時代への反省と、環境問題への目覚めと、あまりにも多くの輸入食材に頼り切っている日本の食糧事情への気付きとで、第1次産業を見直す動きが出ています。でもその一方では、農業の企業化や、個人の弱小農家はもういないというような農業の大規模経営化が政府の政策として着々と進んでもいるのです。

そんなわけで、お金にならない農業の担い手は、たとえ兼業農家であろうと、これからは激減していく運命にあるのでは…と心配しています。だいいち我が家の息子にしたところで、田舎に就職先がないので東京で暮らしていますしね。先祖からの土地を、荒らさずに維持していくだけでも結構大変なのです。

「鹿・シカしか…」と毎日頭を悩ませている弱小農家の我が家のボヤキはともかく、田舎は今、全山緑の饗宴です。ホタルもちらほら飛び始めました。これだから田舎暮らしもいいもんなんですよね。

原稿をだれにも頼んでいなかったたので、今回は私のボヤキでごめんなさい。

スケジュール



※ 伏木では時間がたつぷりあるので、近くの北前船博物館や
越中一宮気多神社などに足をのばすこともできます。

では皆さん、お元気な顔が揃いますように祈念して…
10月3日、高岡駅南口でお会いしましょう！

朝晩涼しくなつたとはいえ、日中の厳しい陽射しと一滴もふらない雨に、空を見上げてはため息をついています。皆さんの地方ではいかがですか？
さて、いよいよ同期会まで3週間となりました。詳しい日程と新しく決まったこととお知らせします。道中気をつけて、高岡にお集まりください。

開催日時： 2009年10月3日(土)～4日(日)

集合場所： JR 西日本北陸本線 高岡駅南口に13:00

宿泊場所： 「ひみのはな」(〒935-0411 水見市姿 400 TEL0766-79-1324)

1. 参加費の件ですが、事前に会計担当の出沼さんの口座に振り込んでいただくことになりました。金額は、「通心 NO.39」でお知らせしましたが、全員全行程参加ということで、**15,000 円**を振り込んでください。
振り込み先は、

三菱東京 UFJ 銀行 八幡支店(店番272) 口座番号 1649378

口座名義人 出沼恵子(いでぬまけいこ) ⇒ 銀行窓口で振り込み用紙
に記入して振り込む人は **恵子さんの「恵」の字に注意！**
9月25日までにお願ひします。

2. 朗唱の会は、原則全員で衣装を着て舞台に上がる・・・ということだそうです。朗唱がいやでも、舞台にだけはぜひ上がってください。1人1首、残りの割り当てを2～3人で1首ずつ、短い歌を全員で1首、というふうに朗唱する予定です。
プログラムには、全員の名前を載せます。私たちの会の紹介は、村治さんがしてくれます。各自の朗唱する歌は、**適当に振り分けて来週中にお届けします。**

3. 新型インフルエンザの流行で、いろいろなイベントの開催状況が危ぶまれていますが、今のところ朗唱の会は開催に向けて精力的に動いています。

私たちも体に気をつけて、全員元気で会えますように・・・

でも、どうしても具合が悪くなったり、急用ができた場合は、

石川君か林さんか私のところに連絡を下さい。

石川君の携帯 090-3529-8070

林さんの携帯 090-7086-1870

青木の携帯 090-7353-7779

メールアドレス kei.tobi@ezweb.ne.jp

メールアドレス a.yasuyo.48@docomo.ne.jp

(私は登録してない電話には出ないので、なるべくメールでお願いします)

4. 宿泊先の「ひみのはな」は、キャンセル料は取らないそうです。

5. 次回開催地候補を考えてきてください。今回の参加者で、候補の中から決定したいと思います。我が国(地方)自慢があれば、立候補してください。具体的に案を提示していただけるとなお嬉しく思います。

通心ネットワークセンター 青木安代

ご無沙汰しています。皆さんお変わりなくお元気ででしょうか？

3月11日の東日本大震災で、被害を受けられた方はいらっしゃるでしょうか？石川君が連絡できる方々には安否確認をしてくれましたが、全員というわけにはいきませんでしたし、ご家族は何ともなくとも、親戚の方・勤め先・お知り合いなど大丈夫でしたでしょうか？ 今更になりますか、何かありました方はぜひご連絡を下さい。

さて、今年の同期会のお知らせが遅くなっていて、何にも連絡が無いので予定が立たない…と、憤慨されている方もいらっしゃるでしょう。 申し訳ありませんでした。

東日本大震災により、それ以降の様々な予定を変更せざるを得ないような状態になっています。 震災直後は、「こんなひどい状況では同期会の案内など出せないだろう…」と思い、しばらくしてから、「自粛するばかりでは経済的循環が生まれないから、旅行に行ったり購買力を高めたりしよう…」とマスコミが言う、「そうかなあ、でもねえ…」とまだ奮い立つ気になれず、とうとう今日まで来てしまいました。

他の一部のメンバーとの話し合いで、やはり今年の同期会は延期としようと決めました。遅くなって申し訳ありませんが、そう決めましたのでご了承下さい。 次の予定を立ててからと思いましたが、なかなか集まる機会が無いままに、タイムリミットということで、延期のお知らせだけで申し訳ありません。

なるべく早くに次回の予定をお知らせしますので、もうしばらくお待ちください。

そんなわけで今回の『通心 NO.42』は、迫田けい子さんの原稿「東洋史同期会に参加して」をお届けします。東洋史の方々は二重になってしましますがお許しください。

東洋史は震災前に案内状を出したので、予定通り実行しました。少人数ながら、けい子さんの筆によって参加者の近況などが鮮やかに記され、楽しく読ませていただきました。ありがとうございます。

そんなけい子さんの原稿の最後に書いてあったお孫さんの誕生ですが、8月11日に無事女兒誕生。 タ乃（ゆの）ちゃんとなづけられました。

震災以降先日の台風12号まで、今年の日本は災害続きで、気持ちが萎えることばかりでしたが、新しい命の誕生を知って、我がことのように嬉しく、私たちがしっかり頑張つて次の世代へ美しい日本をバトンタッチしていかねば…と、ちょっと前向きな姿勢にさせられました。

この歳になると、60年以上使い続けた身体はどこかしらに歪みが出てくるのか、節々右内臓も少しずつ傷んでいるようで、同年代に病院通いをしている人が増えています。

病気が発見されたらお医者様や家族と共に病氣と対峙するしかないのですが、最近では医療技術の向上と新薬の発見などで、難病や癌などもストップをかけられる範囲が広がっています。自分の意思で治療を選ぶことも可能ですし、一昔前とは格段の差で、医師と患者のコミュニケーションが大切にされてきています。

病氣との対峙の仕方もある人、その人で違ふでしょう。はっきり闘いモードで奮闘する人、なだめなだめ病氣と共存する方向を選ぶ人、好き放題の生活を続ける人、各自の価値観によっていろいろいるでしょうが、せめて一緒に喜らす人(パートナーや親兄弟)には、自分がどういった方向で病氣と対峙するつもりでいるかを話しておきたいですね。

最後にネットワークの会計報告をしておきます。

では、そろそろけい子さんの原稿へどうぞ。

「通心」ネットワーク会計報告

月日	摘 要	収入金額	支出金額	差引残高
2009.12.23	繰越金	62,916		62,916
	宅急メール便(60軒)		4,800	58,116
2010.5.20	羽田綾女さんより運営費	2,000		60,116
	片平しげ子さんより運営費	2,000		62,116
2010.11.26	「通心NO.41」のインクカートリッジ		4,980	57,136
11.27	茶封筒60枚		630	56,506
11.29	宅急メール便(48軒)		3,840	52,666
	郵送料		140	52,526
	合 計	66,916	14,390	52,526

2011年9月1日現在

2011年5月28日
東洋史同期会に参加して

須藤君、吉田君、小林庸子(旧姓毛利)さんのおかげで、なんと、船木先生の墓参り以来の15年ぶりの東洋史の同期会で見なさんにお会いすることができました。参加者は、男性5人女性4人の9人。

昨年3月に谷口さんの東洋大学退職記念の講演会&パーティに参加した、須藤、安藤、小林、藤井、迫田の5人が喫茶店で、「今度東洋史の同期会をしよう。今決めておかないとときとやらなくなるから」と、この年の秋10月と、候補日まで決めたわりには、夏ごろの須藤氏の督促に、職場で顔を合わせている安藤氏と私は、「うーん、予定が詰まってきて、もうできないね」と、勝手に延期を決定し、何も動かないままでした。こんなどうしようもない二人はおいといて、吉田君と須藤君の再会から今回の集まりは実現しました。

須藤君は当日、遙か以前からの懐かしい写真類をファイルにして、ちやーんと持ってきてくれました。このところは、国史が中心の「通信」が集まりを設定してくれるので、それに乗るだけで、東洋史での集まりはしていなかったんだなああとということを改めて確認できました。幹事のお三方ありがとうございました！！

みんな60代になって、これまでの職場は退職して、嘱託などで働く程度になった今の時期、就職・結婚・子育て・別れ等のいろいろな荒波を越えて、心も穏やかになった時期だからこそその楽しい語らいのひとときだったのではと思います。

私は、吉田(学)君とは、卒業以来の邂逅でした。千葉県松戸で小学校の教師を退職して今は嘱託で仕事に行っているという吉田君。もともと上背はあったけれど、恰幅のいい体型となっていて、第二子の出産時に奥さんを亡くされたことですから、子育てと教育者としての仕事と大変だったと思います。でも30代の大変だった時期を語る口調からは、なんとなく宮崎なまりは落ちていたかなあ。なにしろ「ことばの教室？」で、言語的に障害のある子どもたちを一对一で指導していたそうですから。今は渡辺君と東海道歩きやゴルフなどで行き来しているそうです。

吉田君と一緒に東海道を歩いていたのに足を痛めて、ゴルフも含めて中止しているという渡辺(真吉)君は、すぐく元気な一っぱい話をしてくれたので、足の話は冗談かと思っていました。帰る道すがら、やはり痛そうに歩いてましたね。渡辺くんも娘さんが幼い頃離婚したとか。でもその娘さんを休みのたびに北海道の祖父母のところに来て帰ったと、いい父子関係を築けているようで、良かったですね。吉田君と二人は大学時代同じ下宿にいて、仲間の溜まり場にもなっていた一そこに、家が近い須藤君や先輩の新川さん達も出入りしていたとのことでした。渡辺君は、迫田が亡くなった後、千葉の家に新川さんと一緒に訪ねてくれた事があったので、あの時以来の再会でした。

岩佐(旧姓中)敬子さん。どう読んでもケイコだろうと思っていたら、ヒロコよ、と言われたことを思い出しました。彼女とは、まだ20代の頃にお茶ノ水あたりで、女性だけ集まったことがあった(この時には須藤君もいたと言っていた)あれ以来だと思っけど、全然変わっていません。いや体型はシヤキツとしているかな？それもそのはず、ヨガを長年やっているとのことでした。でも「糖尿病でインシュリンを打っているの」と、一人欠席になったため余った料理類に、手を出すことはしないあたり、さすが一節制しているね！！小学校何回、中学校何回、高校何回と転勤族の父上の仕事の関係で転校したとのことですが、今は娘達も巣立ち、退職したご主人と犬とで茅ヶ崎の海岸を散歩しているそうです。

山形県から飛行機でやってきた鎌田君。遠いところにながら、東洋史の集まりにはいつも参加してくれる。私が行かなかった「通信」の東洋大での集まりにも出たそう。須藤君はこの時、東京に住んでいる娘さんに「父を宜しく」と言われたとか。本当にいい娘さんだねと言っていました。前に会った時は養護学校の教師だと言ってましたが、その後普通の小学校の校長で退職したとのこと。今の課題はネコ好きの奥さんが飼っている16匹のネコだそうです。卒論を出さなかったK君と、私がどこかに書いたとの事で、家族から冷やかされてしまったりとかー。スマン！

今回の幹事役毛利さん。「通信」へも東洋史のパイプ役として出てくれているし、お世話になりま
す。私の息子がどうしようもない自前の劇団をやっているのですが、宇都宮の石川君達と何度か
見に行ってくれているのです。本当に感謝です。今は小林さんとなっていていますが、結婚は大学の
文化財研究会の後輩と40に手が届く頃と遅かったとの話に、昔チャレンジすれば良かったなあと思
っている男性は多いかも？ 帝国書院に数年いたあと、経済研究関係の団体職員を長く勤
め、今も週に何回か仕事に行っているとのことでした。

同じく幹事の須藤君。なぜか私の町内のマンションに引っ越してきたけど、生協を退職して悠々
自適の生活で、勤め人の私とは生活時間が合わないらしく、ほんの数回しか町では見かけません。
奥さんと二人で海外旅行に行ったり、カルチャーセンターでいろいろな講座を受講したりして、典
型的な団塊の世代の退職者の生活をしているみたい。同じく息子の演劇を見に行ってくれて、あれ
じゃあダメだと、辛辣に批評してくれます。あの時はこうだった、この時はこうだった、と記憶のい
いところを披露してくれたため、この日、みなさんから永久幹事に任命されました。

小平さん！！今は広瀬ともみさんですが、あなたの元気な顔を見られたのが一番嬉しかった
よ！！ 数年前に頭に腫瘍ができたとか話せない、眼が見えないとか体調不備を聞いていた
し、、、 几帳面などもみさんは息子の公演の案内にも、行けないけどとチケット代送ってくれる。
ずばらな私はともみさんからの連絡に対して3回に1回くらいしか返事してないけど、どうしてるか
など思っではいたんだ！ 彼女は50代前半までで、東京の小学校の教師を早期退職し、今は病
気との闘い。20歳まで育てた息子さんを亡くした経験もあるけど、「私だけじゃない、みんな大変な
生活を頑張ってきたのね」との語りが印象的でした。頑張ってね！！

安藤さんとは、この3月まで一緒に仕事をしていました。「もう退職しようかな」という私に対
して「働かしてくれないなら働けるまで働くと、常に明言していた安藤さんが、ささと先に辞めてしま
ったその源には、「還暦記念に結婚した」富子さんの存在があります。蔵の駅に近い繁盛している
「安藤あみもの教室」を開いていた母上が倒れて、その看病生活に光を与え、人生観まで変えてく
れた富子さんは、「安藤たつきゅう教室」の生徒です。この6月から長年集めた中国音楽を主にし
た喫茶店を開くそうです。土・日しか開かないといいますが、みなさん覗いてみて下さい。

5月28日。この日は十分間に合うつもりで行ったのに、10分ばかり遅刻して行った迫田です。
地図を読むのが得意のはずが、もうダメです一年ですね。この日はまた風邪でゴホンゴホンしてい
てすみませんでした。5月の連休の3日。幕張という一駅先にある体育館で卓球の試合がありました
た。終ったらすごい雨。みんな空を見上げて少しは止んでから、、、と言っていたのに、私は、賞品
でもらったビニールのゴミ袋を頭に被り荷物もくるんで、自転車をこいでずぶ濡れになった一どうも
それが原因だと思うのですが、一か月近くたつのにまだ咳が抜けません。おまけに4日も5日も東
京と千葉で卓球の試合が入っていて、風邪気味ながら全部こなしたのです。練習は昼休みに遊
ぶだけ(なのに安藤さんがいなくなっちゃった)で、試合が月に5、6回。卓球と図書館に明け暮れ
る日々です。

須藤君がファイルにして持ってきてくれた写真―東洋史の学年で行った催しに、私はほとんど
行っていません。私が参加したのは松本の青年の家での合宿が2回だけでした。だけでも、船木
先生や谷口さんや迫田クンに引きずられて、なんとか東洋史の仲間の一員に加えてもらえ、東ア
ジアへの関心も持ち続けています。

迫田クンがいなくなって17年が過ぎました。船木先生、谷口さんから言われて卒論を出してい
ない私と、K君に迫田クンが電話したこと。船木先生が、お宅に近いアパートに住んでいた私の部
屋のドアをドンドン叩いて、「卒論を出すように」言いに来てくれたこともこの日話題になりました。濃
密な人間関係に触れられた最後の世代なのかもしれません。

長くなりました。最後にご報告です―以前、渡辺君が、「サコタに似ている」とびっくりしてくれた
息子のところに、この夏子どもが産まれる予定です。

どうぞみなさま、次の機会にはぜひご参集くださいませ。

迫田 けい子

青木

差出人: "青木" <tsu-shin1967@jupiter.ocn.ne.jp>
宛先: "石川 恵一" <yu900511@drive.ocn.ne.jp>
送信日時: 2011年10月10日 22:47
件名: 返事、遅くなりました

昨日は秋晴れの青空のもと、村の小さな秋祭りがありました。

幹事会の報告をもらいながら返事が遅くなりごめんなさい。相変わらずバタバタしています。

幹事会、御苦労さまでした。

まず、①に、同期会とイベントの違いということは分かりました。

でも、それと今回延期になった山梨での同期会を中止することとがどう結びつかわかりません。

山梨の場合、まだ内容まで何も決めてないのでイベントに属すとは思えませんが…。

また、綾女ちゃんやユツ子にいろいろお世話になっているのに、今更中止というのは大きさに言えば

信義にもとる行為だと思えます。

山梨の件は一度決めたことなので、このまま場所は変えないでほしいと思います。

それと②に、同期会の周期ですが、2年毎というのは確かに頻繁かもしれませんが、でもそれは、今自分が元気な人が言うことだと思えますよ。

私の亡くなった父がよく言っていました。

「60代位まではいつでも会えると思っっているが、

70を超えると次には会えないのでは…と思うような人が出てくるものだ。

80を超えると、いくら自分は元気だと思っても遠出には家族の反対があっけられなくなる。

同窓会は、出られるときに参加すればいいのだから、毎年企画するんだよ。

そうすれば、病気だったり、身内に不幸があったり、他の大切な行事などと重なったりしても、

また来年参加しよう…とあきらめたり先に楽しみを伸ばしたりできる。」

そう言って、50代位から亡くなる年まで40年近く、旧制中学校の同窓会幹事をしてきました。

最後の5～6年は、車いすの人や杖が必要な人は私の弟が車で送迎をしていました。

だから、父が亡くなった後同窓会ができなくて、

弟に「植松さんがいなくなっちゃったから誰にも会えなくて寂しいよ」と言う人がいたそうです。

今は私もまあ元気でやっていますので、2年のスパンは短いと言えれば短けれど、東京にいる人と地方の人間とは、また考え方が違うかもしれません。

同期会以外のイベントも、東京近辺組は色々参加できるけど、地方にいたらまず遠いし、

時間もお金もかかるし、

日帰り企画でも、宿泊しなければ参加できないということが多いだろし、参加は難しいです。

私の発案として、今のまま2年毎でも、東京で1回、単なる食事を共にするだけの同期会をして、

次の2年後はどこか地方でして、その時は観光や勉強を兼ねたものにする、2年毎にその繰り返しではどうですか？

③に、イベントは発案者がいる限り、いつでもどこでもいいと思います。ただ、それを「通心」読者の全部にいつも連絡するのかどうか…ということはどう思いますか？

今、5万円位運営費がありますが、伊藤さんからバトンタッチされてからは、同期会の度に残金を入れてもらったり、強制的に参加者から集金したりで、「通心」読者からの運営費の徴収という面では公平性に欠けていると思います。

お断りのない人には運営費の入金が無くても送っています。 「通心」は一応それでも良しとしましても、

そのほかのイベントとなると誰を対象に案内するのか…ちよっと難しいですね。

④に、インターネットでの「通心」の送信の件ですが、私も困っています。

送信するときにツールから「開封メッセージの要求」を手エックして送っていますが、いまだにあなたも含めて6人、五十嵐さん・後藤さん・河野くん・中條さん・廣川君から開封したお知らせが届きません。

私の原稿が読める読めないにかかわらず、メールを手エックしたら開封のお知らせが届くことになってくるのですがそれが届きません。9月16日以降毎日メール手エックしていますが…。これでは、時期を逸してしまし、どうしたものかなあ…と思っています。

廣川君が開かないというのは、彼のPCが一太郎というのが関係しているかな。それとも、アドビがインストールされていないのかも…。富樫さんもアドビが無かったので、あとでFAXで送りました。

上記6人以外にも、返信をくれたけど開封のお知らせが届かなかった人が、谷口先生・安形さん・片っぺです。

石川君はちゃんと開いているのにこちらに開封のお知らせが届いていないから、その辺も返信をくれた人たちと同じだと思えます。一度私の方で調べたほうがいいかもね。

でもおかしなのは、メルアドが全然登録されていないし、送ったわけでもないのに開封のお知らせが届いているのが1件あるんだけどこれもおかしいですよ。

念のため次に書いておくから、誰か思いつく人だったら教えて下さい。

BYB01670@nifty.com です。

そんなわけで、メール配信したら、届いているかどうかずっと不安で気になります。

手エックまでしているのにそれさえ有効でないとしたら、確認するのにいちいち電話しな

ければならないし、
ちよつとそれも馬鹿らしいかなと思います。
郵送か宅急メール便に統一した方がいいのかな…
その点も次には話し合ってください。
出沼さんと廣川君には郵送した方がいいのかしら？
連絡次第ですぐに送りますけど…。

以上長くなりましたがよろしくお願ひします。

PS. 東京での幹事会の費用、お茶代位なら出せますので請求してください。

青木

差出人: <maroon1217@docomo.ne.jp>
宛先: <tsu-shin1967@jupiter.ocn.ne.jp>
送信日時: 2011年10月10日 19:57
件名: FW:昨日はお疲れさまでした。

昨日、午後1時に上野で待ち合わせ池之端の都立旧岩崎邸庭園に遊び、その後再度上野に戻り毛利さんを含めて六人で幹事会を開きました。以下の報告内容についてはメモを取ってくれてくれた伊藤さんの確認を得てから送信するつもりでしたが、まだ伊藤さんから返信がありません。伊藤さんから付け足しがあったり訂正があれば、それはその時に又報告するとして、とりあえず昨日の報告をさせていただきます。席上、広川君から、これまで同期会とよんでいたものは、同期会(同窓会)とイベントに分けられる。

神戸、京都、東京鎌倉は同期会。高岡はどちらからかといえばイベント。

同期会は4～5年のサイクルでやるのが望ましい。

イベントはサイクルはあまり気にせずに、面白いもの、紹介したいもの、みんなでやりたいものがあればそれらを提案する。

烏山の山あげ祭、さきたま古墳群などがそれぞれにあたる。

高岡は同期会とイベントが合体した特異な例で、それにならおうとしても難しい。

同期会としてはそのサイクルを見直し、イベントはイベントとして別個に考えたい。

そうした意見を踏まえて今回の山梨は中止して、改めて企画するという意見や、甲府、武田神社という集まり易い所で同期会を開催するなどの意見が出されたが集約するまでにはいかなかった。結果、今回の山梨は延期を継続して、来年3月に改めて今日のメンバーに何人が加えて東京幹事会を持つ事にした。

それまでに綾女とか由紀子の意見も聞いておく。勿論、安代の考えも安福の意見もその他の人達の意見も確認する。以上。かな。

青木

差出人: <maroon1217@docomo.ne.jp>
宛先: <tsu-shin1967@jupiter.ocn.ne.jp>
送信日時: 2011年10月10日 19:58
件名: FW:先週の件、書き忘れた事。

広川君、出沼さんは安代からのメールが開けないようです。
長谷川君からはメールよりも以前のように封筒で送られてくる方がいいという意見がありました。

メールは手間が省けて、クリック一つで多くの人の手元に直接、届けられるけれど、封筒の表に書かれた自分の名前を確認して、封を切る時の期待感とは別物のようなようです。

先日、皆々の意見に対し、私思、石川君にメールして、他の幹事会に出席してはどうかとお願いに言われたので、石川君の報告を受けた幹事会内容のメールも、それに対してお返事をして、それを7月1日に同封します。

3月直ぐの原簿、27日迄の報告、その折に、私思、皆々の意見、お返し、お返事を思っています。

それ

本(原)の報告書、お返し、お返り下さい。

和らしい爽やかなお返事を、お待ちしております。

今日も又雨です。

先日は、幹事会に出席していただき、ありがとうございました。

お礼のメールを、お待ちしております。

その後、石川君からの報告メールで、お返事を、廣川君から「通帳NO.42」を自分のメールで送られて、お返事を、お返すこと、

大の喜びです。

また、理由の、お返事を、

私思、お返す場合、確かに届いて、

又、本人の、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

利用して、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す

お返すこと、お返すこと、お返す